

II 地域振興策の基礎情報

1 用語の解説

本基本計画で使用する用語について解説する。

(1) 組合

印西地区環境整備事業組合

(千葉県印西市・白井市・栄町で構成する特別地方公共団体で、一般廃棄物中間処理施設などの設置、管理及び運営を担当する)

(2) 次期施設

組合が新たに整備する一般廃棄物中間処理施設（新クリーンセンター）

※整備協定書（P10 参照）では同施設を「吉田資源循環センター」と称す。

①施設構成

i) 熱回収施設（可燃ごみの焼却処理施設）

（施設規模は 156 t / 日程度の予定）

ii) リサイクルセンター（不燃・粗大ごみの破碎処理施設）

（施設規模は 15 t / 日程度の予定）

iii) リサイクルプラザ（再生家具の展示等を行う環境啓発施設）

（施設規模は 60 m²程度の予定）

iv) 管理棟（組合の事務所）

（施設規模は未定）

※ i) 熱回収施設及び ii) リサイクルセンターの施設規模は、平成 30 年度（2018 年度）に改訂予定の「印西地区ごみ処理基本計画」における将来推計ごみ量に基づき精査する。

②稼働開始目標年度

平成 40 年度（2028 年度）

(3) 建設予定地（吉田地区）

次期施設を整備する用地（下図・P 4・P 5 参照）

※整備協定書（P10 参照）を締結する前は同地を「建設候補地」と称す。

(4) 事業用地

建設予定地に地域振興策展開エリア（想定）を加えた用地

（下図・P 4・P 5 参照）

(5) 吉田区

建設予定地である吉田地区の地元町内会（千葉県印西市大字吉田の全域）

（下図・P 4 参照）

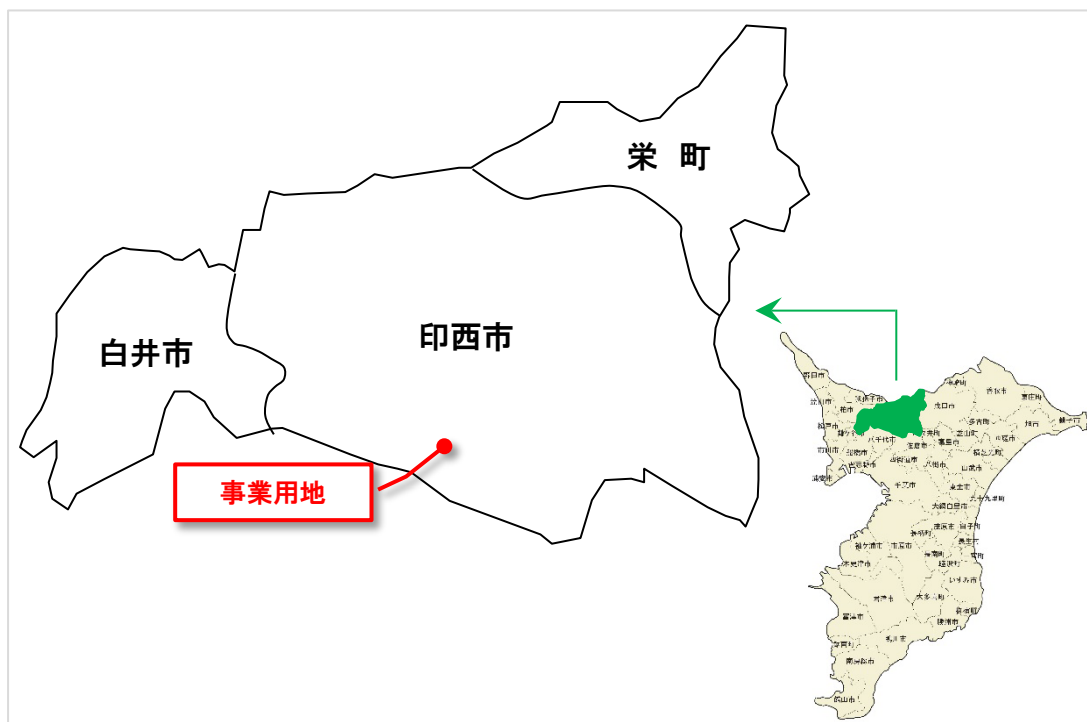
(6) 株よしだ

今後、吉田区が設立する法人の仮称

（地域振興施設の運営に関する指定管理契約先として予定する）

2 案内図

(1) 案内図



(2) 航空写真 (広域)



(3) 航空写真（事業用地）

地域振興策展開エリア（想定）は、買収地を示すものではなく、想定される最大の展開エリアイメージを示す。エリア決定は平成 30 年度を予定する。



3 これまでの経緯

(1) 経緯の一覧

次期施設の整備事業におけるこれまでの経緯は下表のとおり。

年 度	経 緯
昭和 61 年度 (1986 年度)	現在地（印西市大塚一丁目 1 番地 1）にて、印西クリーンセンター稼働開始（1・2号焼却炉、粗大ごみ処理施設）
平成 5 年度 (1993 年度)	印西クリーンセンターの近接地にて温水センター運営開始
平成 8 年度 (1996 年度)	地域冷暖房システムへの余熱（蒸気）供給開始
平成 10 年度 (1998 年度)	3号焼却炉増設工事竣工
平成 20 年度 (2008 年度)	<p>現在地内に確保している建替用地（テニスコート部）での次期施設整備を管理者・副管理者に説明</p> <p>組合議会及び関係市町村議会から、現在地内に確保している建替用地ありきではなく、他の場所も検討すべきとの意見が示される</p>
平成 21 年度 (2009 年度)	<p>「施設整備検討委員会」を設置（次期施設の用地検討及び整備計画検討を担任）</p> <p>組合関係市町村へ比較検討地の推薦依頼を行った結果、5箇所の推薦があり、当該5箇所に現在地を加えた計6箇所を最終的な比較検討地とする</p> <p>印西市：8住区・9住区・現在地（全て千葉NT事業用地内） 白井市：平塚地区 印旛村：岩戸地区 本埜村：みどり台三丁目（千葉NT事業用地内） 栄 町：推薦地なし</p> <p>市町村合併により組合関係市町が印西市、白井市及び栄町の3団体となる（印旛村・本埜村が印西市に編入）</p>

年 度	経 緯
平成 22 年度 (2010 年度)	「施設整備検討委員会」が、比較検討地における評点合計の上位 3 箇所を管理者へ報告（評点順：9 住区・現在地・8 住区）
	管理者・副管理者会議にて、上位 3 箇所を候補地とすることを決定し、当該 3 箇所を行政区域内に持つ印西市へ意見照会したところ、9 住区または現在地が望ましいとの回答を得る
	「施設整備検討委員会」が、施設整備基本計画（案）を管理者へ報告し、原案の内容にて当該計画を策定
平成 23 年度 (2011 年度)	管理者・副管理者会議にて、9 住区がより望ましいと合意し、9 住区を建設予定地として決定
	9 住区の周辺住民への説明会を計 11 回開催
平成 24 年度 (2012 年度)	板倉新印西市長が管理者に就任
	印西市長から管理者へ、「9 住区における整備計画の白紙撤回」が申し入れされる
	管理者の附属機関として、住民委員を主体とする「ごみ処理基本計画検討委員会」を設置（ごみ処理行政全般のマスタープラン検討を担当）
管理者の附属機関として、住民委員を主体とする「用地検討委員会」を設置（次期施設の用地検討を担当）	
平成 25 年度 (2013 年度)	「ごみ処理基本計画検討委員会」が「用地検討委員会」へ、次期施設の整備に係る基本方針及び施設規模の見込みを提出
	「用地検討委員会」が、候補地の選定方法を管理者へ答申
	「用地検討委員会」が、候補地を組合関係市町内から広く公募し、地権者から 4 箇所の応募を受理 印西市：岩戸地区・滝地区・武西地区・吉田地区 白井市：応募なし 栄 町：応募なし
	「ごみ処理基本計画検討委員会」が、ごみ処理基本計画（案）を管理者へ答申し、原案の内容にて当該計画を策定

年 度	経 緯
平成 26 年度 (2014 年度)	「用地検討委員会」が、応募地 4 箇所に現在地（千葉NT事業用地内）を加えた 5 箇所を候補地として位置付け、比較評価を進める
	候補地の一つである吉田地区の地元町内会（吉田区）が同意書を「用地検討委員会」へ提出（同意条件：吉田区が希望・提案する地域振興策を真摯に受け止め、協議の上妥当な合意を見だし、これを担保すること。）
	「用地検討委員会」が、総合評点順位第 1 位を吉田地区とする候補地の比較評価結果を管理者へ答申
	管理者・副管理者会議にて、吉田地区を建設候補地として選定
	吉田地区の地元町内会（吉田区）と組合で、吉田地区を建設候補地として決定したことを確認及び両者の役割等を定めた基本協定を締結（P 9 参照）
平成 27 年度 (2015 年度)	管理者の附属機関として、住民委員を主体とする「施設整備基本計画検討委員会」を設置（次期施設の整備計画検討を担当）
	管理者の附属機関として、住民委員を主体とする「地域振興策検討委員会」を設置（次期施設の周辺対策に係る基本構想検討を担当）
	「施設整備基本計画検討委員会」が、施設整備基本計画（案）を管理者へ答申し、原案の内容にて当該計画を策定（P 31 参照）
	「地域振興策検討委員会」が、地域振興策基本構想（案）を管理者へ答申し、原案の内容にて当該構想を策定（P 31 参照）
平成 28 年度 (2016 年度)	吉田地区の地元町内会（吉田区）と組合で、吉田地区を建設予定地として決定することや、地域振興策整備費用の上限額など、次期施設整備事業及び地域振興策を円滑に進めることを目的とした整備協定を締結（P 10 参照）

(2) 基本協定の締結

平成 27 年（2015 年）3 月に、吉田区と組合で、吉田地区を建設候補地として決定したことを確認及び両者の役割等を定めた基本協定を締結した。

次期中間処理施設整備事業の施行に関する基本協定書の内容

吉田区（以下「甲」という。）と印西地区環境整備事業組合（以下「乙」という。）は、次期中間処理施設整備事業（以下「事業」という。）の施行に関して、以下の事項について確認し、ここに基本協定を締結する。

（目的）

第 1 条 本協定は、甲及び乙が吉田地区（応募のあった印西市吉田 5 4 6 番、他 3 2 筆の土地）を建設候補地として決定したことを確認し、両者の役割等について必要な事項を定めるものとする。

（甲の役割）

第 2 条 甲は、事業が円滑に推進するよう協力するものとする。

（乙の役割）

第 3 条 乙は、事業が円滑に推進するよう最善を尽くすものとする。

（施設整備）

第 4 条 甲及び乙は、施設整備基本計画検討委員会による答申を踏まえ、協議のうえ両者が合意する施設整備の基本計画を決定するものとする。

（地域振興）

第 5 条 甲及び乙は、地域振興策検討委員会による答申を踏まえ、協議のうえ両者が合意する地域振興策を決定するものとする。

（疑義等の協議）

第 6 条 本協定に定めのない事項及び疑義が生じたときは、その都度、甲及び乙が協議して定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲及び乙がそれぞれ記名押印のうえ各 1 通を保有する。

(3) 整備協定の締結

平成 29 年（2017 年）3 月に、吉田区と組合で、吉田地区を建設予定地として決定することや、地域振興策整備費用の上限額など、次期施設の整備事業及び地域振興策を円滑に進めることを目的とした整備協定を締結した。

次期中間処理施設整備事業の施行に関する整備協定書の内容

吉田区（以下「甲」という。）及び印西地区環境整備事業組合（以下「乙」という。）は、次期中間処理施設として整備する吉田資源循環センター並びに地域振興策の施行に関し、基本協定書第 4 条で規定する基本計画及び第 5 条で規定する地域振興策の決定に当たり、ここに整備協定を締結する。

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 本協定は、甲及び乙が基本協定書第 1 条で規定する吉田地区を吉田資源循環センターの建設予定地として決定することを確認するとともに、本協定の範囲内において事業及び地域振興策に同意し、必要な事項を定めることにより、事業及び地域振興策を円滑に進めることを目的とする。

（定義）

第 2 条 本協定における用語の定義は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 「吉田資源循環センター」とは、次期中間処理施設として整備するエネルギー回収型廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設の仮称をいう。
- (2) 「地域振興策」とは、地域活性化に寄与する各策の総称をいう。
- (3) 「基本協定書」とは、甲及び乙が平成 27 年 3 月 3 日付けで締結した次期中間処理施設整備事業の施行に関する基本協定書をいう。
- (4) 「事業」とは、吉田資源循環センターの整備事業をいう。
- (5) 「施設整備基本計画」とは、乙が平成 28 年 4 月に策定した次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画をいう。
- (6) 「地域振興策基本構想」とは、乙が平成 28 年 4 月に策定した次期中間処理施設整備事業地域振興策基本構想をいう。

第 2 章 吉田資源循環センター

(吉田資源循環センターの用地)

第3条 第1条で規定する吉田資源循環センターの建設予定地は、次のとおりとする(位置詳細別紙)。

用地	面積
印西市吉田 546 番 他	約 26,000 m ²

(稼働開始の目標年度)

第4条 吉田資源循環センターは、平成40年度の稼働開始を目標とする。ただし、乙は、より早期の稼働開始に向け最大限努力するものとし、甲は協力するものとする。

(吉田資源循環センターの位置付け)

第5条 乙は、吉田資源循環センターと地域振興策が連携することによる恒久施設として、甲の理解が得られる施設整備及び事業運営を図るものとする。

(吉田資源循環センターの建替え)

第6条 乙は、第4条で規定する稼働開始から概ね30年毎に迎える吉田資源循環センターの建替えは、前条による規定のもと、第3条で規定する用地内で行うものとする。ただし、甲及び乙の合意があった場合は、この限りでない。

(吉田資源循環センター用地の拡張)

第7条 乙は、吉田資源循環センターの建替え又はより一層の循環型社会形成の推進に寄与することが認められる機能強化を図る場合であつて、第3条で規定する用地に不足が生じるときは、甲及び乙による協議の上、拡張する用地の所有者の了承を得た後、用地を拡張することができるものとする。

- 2 前項で規定する用地の合理的な拡張先が地域振興策の展開用地であるときは、拡張の可否及び失われる地域振興策の代替機能について、甲及び乙による協議の上、決定する。

(安全操業の堅持)

第8条 甲及び乙は、地域住民の健康の保護と生活環境の保全を図ることを第一に考え、次の各号で規定する取組を実施するものとする。

- (1) 大気汚染、騒音、振動その他の公害の防止について万全の措置を講ずるものとし、環境影響評価の事後、速やかに別途公害防止協定を締結するものとする。
- (2) 吉田資源循環センターが安全かつ安定的に操業しているか監視するため、甲及び乙のほか、必要に応じその他の住民等で組織する協同機関を設置するものとする。なお、当該機関の設置、担当事務、組織等について、甲及び乙による協議の上、前号に規定する公害防止協定

に反映させるもののほか、運営方法の細則については別途定めるものとする。

- (3) 乙は、周辺地域の大气、水質、土壌等の環境を的確に把握するため、定点観測を実施するものとし、観測項目、観測頻度、観測場所等については、甲及び乙による協議の上、第1号に規定する公害防止協定に反映させるものとする。

(吉田資源循環センターの整備計画)

第9条 吉田資源循環センター及び附帯施設の整備計画については、今後、施設整備基本計画の追加策定時に次の各号の内容を反映させるものとし、千葉県環境影響評価委員会などの意見を踏まえ、最終決定するものとする。

- (1) 吉田資源循環センターの施設規模(処理能力)は、今後改訂予定の印西地区ごみ処理基本計画で推計する減量目標達成時のごみ量に基づき改めて算定し、決定する。
- (2) 吉田資源循環センター用地の造成は、施設整備基本計画を踏まえ、周辺の景観等への影響を最小限にとどめるべく切下げ造成を採用し、切下げ深度については甲及び乙による協議の上、決定する。
- (3) 吉田資源循環センターの煙突高は、施設整備基本計画及び経済性を踏まえ、建設地盤から59mとすることを基本とし、甲及び乙による協議の上、決定する。
- (4) 吉田資源循環センター(地域振興策施設を含む。次号について同じ。)へのアクセス道路(進入道路)の整備計画は、施設整備基本計画及び現地の状況を踏まえ、甲及び乙による協議の上、決定する。
- (5) 吉田資源循環センターの調整池排水路の整備計画は、施設整備基本計画及び現地の状況を踏まえ、甲及び乙による協議の上、決定する。

第3章 地域振興策

(地域振興策)

第10条 地域振興策は、地域振興策基本構想を踏まえ、整備する各施設、場所、規模及び事業スキームについて、甲及び乙による協議の上、決定する。なお、当該決定に当たっては、甲の区域における地域活性化だけにとどまらず、周辺地域への公共公益的な波及効果も踏まえたものとする。

- 2 乙は、前項の規定による地域振興策を決定したときは、速やかに諸事務に着手するものとする。

(地域振興策に係る整備費用)

第11条 前条第1項において決定した地域振興策に係る整備費用の総額については、金3,381,000,000円(調査費用、用地取得費用等及び消費税等を含む一式)を上限とする。

- 2 前項の整備費用の財政負担軽減を図るべく、国、千葉県等の補助金及び交付金を最大限活用することについて、甲及び乙は相互に協力するものとする。
- 3 社会情勢の変化による著しい物価変動及び消費税等の改定があったときは、甲及び乙による協議の上、前項の整備費用の総額を見直すことができるものとする。

(排熱エネルギーの供給)

- 第 12 条 吉田資源循環センターで発生した排熱エネルギーについては、吉田資源循環センターの操業に必要な量を除き、第 10 条第 1 項において決定した地域振興策に最大限活用するものとする。
- 2 前項の規定による地域振興策に活用する排熱エネルギーの供給条件のほか、吉田資源循環センターの法定点検による排熱エネルギーの供給停止時期等については、甲及び乙による協議の上、決定する。

(防災拠点等としての機能活用)

- 第 13 条 第 10 条第 1 項において決定した地域振興策で設置する各施設は、排熱エネルギーの供給機能を有する吉田資源循環センターと連携することにより、大規模災害時において甲の区域を中心とした周辺地域の防災拠点及び復興拠点としての活用を図るものとする。
- 2 甲は、前項の活用に当たり、地域振興策で設置する各施設が、一時的に本来の機能が発揮できなくなることを承認するものとし、活用の期間及び区域については、その都度、甲及び乙による協議の上、決定する。

第 4 章 その他

(景観への配慮)

- 第 14 条 吉田資源循環センター及び地域振興策で設置する各施設等の整備に当たっては、周辺の景観や自然環境との調和に配慮した景観計画を甲及び乙による協議の上、決定する。

(雇用創出)

- 第 15 条 乙は、事業及び地域振興策で設置する各施設について、積極的に甲の区域を中心とした周辺地域における雇用創出を図るよう努めるものとする。

(甲が設立する法人)

- 第 16 条 甲は、事業及び地域振興策において設置した施設の運営管理に当たり、新たに法人を設立するものとする。
- 2 前項で規定する法人は、自己の収支で独立した採算をとることを目指すものとする。

(甲が設立する法人に対する管理業務の委託)

第 17 条 乙は、第 10 条、第 13 条及び第 15 条で規定する周辺地域への公共公益的な波及効果を総合的に勘案し、事業及び地域振興策において設置した施設の運営管理業務の一部について、前条第 1 項で規定する法人に委託するものとする。なお、委託内容については、甲及び乙による協議の上、決定する。

(ごみ収集車両等の通行ルート)

第 18 条 吉田資源循環センターへ搬入出するごみ収集車両、焼却灰運搬車両及び薬品を扱う業務車両等の甲の区域における通行ルートについては、甲及び乙による協議の上、決定する。

(エコカーの導入促進)

第 19 条 乙は、前条で規定する各車両について、大気汚染物質の排出量を抑える等、環境負荷が少ない車両の導入促進に努めるものとする。

(反社会的勢力の排除)

第 20 条 甲及び乙は、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成 3 年法律第 77 号)で規定する暴力団及び暴力団員等を始めとした反社会的勢力を事業及び地域振興策から排除するよう、相互に協力するものとする。

(協定事項の見直し)

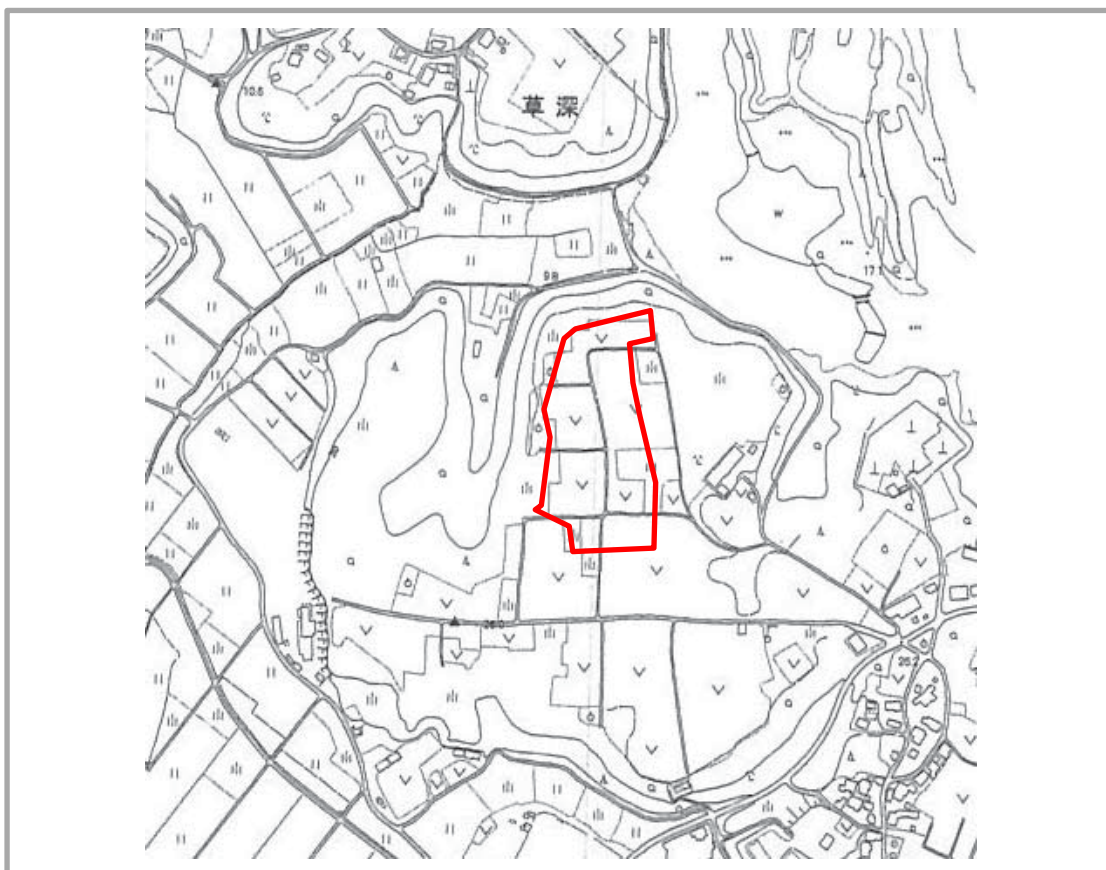
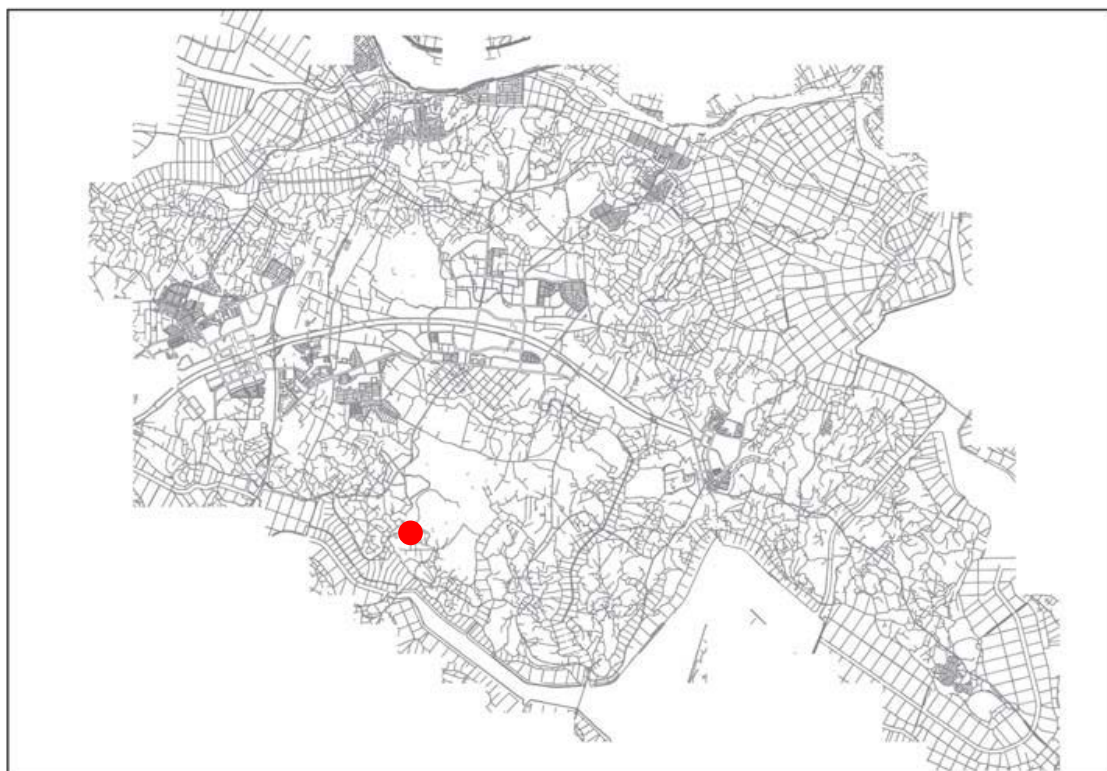
第 21 条 甲及び乙は、本協定に定める事項の履行状況を定期的に確認し、評価及び改善を行い、必要に応じ甲及び乙による協議の上、本協定の見直しを図るものとする。

(信義誠実の原則)

第 22 条 甲及び乙は、本協定に定めのない事項及び疑義が生じたときは、民法その他関係法令に従い、互いに信義を重んじ誠意をもって協議の上、解決を図るものとする。

本協定の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲及び乙がそれぞれ記名押印のうえ各 1 通を保有する。

別紙 (第3条)



(4) 地域振興策基本構想の策定

平成 28 年（2016 年）4 月に、地域振興策基本構想を策定した。
（平成 27 年度（2015 年度）に地域振興策検討委員会が内容を調査審議）

①全体構想

地域まるごとフィールドミュージアム構想
～地域の元気と来訪者の笑顔があふれるまちづくり～

②理念・目的

多様な地域資源と次期施設から供給されるエネルギーを活用しながら、地域全体を対象とした最適なハード整備・持続可能なソフト施策を計画的に展開し、地域が持つポテンシャルを最大限に引き出すことにより「暮らしやすく持続できる快適なまち」「訪れたい魅力あるまち」「次世代に残したい里地里山」の具現化を図る。

③地域に求められる将来像

次期施設を恒久的な施設として位置付けた際、今後の社会情勢がどのように変化しようとも変わることのない「誰もが持つ不変的な価値観」を重視すべきと考える。

- 1) 周辺住民が安定的に経済的な恩恵を受けることが可能な「収益スキーム」を構築すること。
- 2) 「賑わい」が創出されること。
- 3) 「雇用」と「就労」の場が創出されること。
- 4) 「農業振興」が図られること。
- 5) 里地里山の「景観維持」が図られること。
- 6) 対外的及び次世代に対し「誇り」を持てること。
- 7) 「持続可能性」が図られること。

④地域の魅力や優位点

1) 静寂

都市の喧騒や社会騒音とは無縁な静寂に包まれた場所が点在する。

2) 近隣に大規模住宅群

千葉ニュータウン中央駅付近・印西牧の原駅付近・印旛日本医大駅付近・八千代市米本団地・佐倉市ユーカリが丘の大規模住宅群が近隣に位置する。

3) 活発な地域コミュニティ

消防団・祭事の継承など、地域コミュニティが活発である。

4) 里地里山

江戸時代以前から変わらないであろう日本の原風景としての谷津田が広範囲に残されている。

5) 猛禽類の生息

建設予定地の隣接地に、サシバ等の猛禽類が営巣している可能性がある。

6) 未改修水路（土水路）

周辺景観と調和し、また、水生動植物の生息場所として貴重な土水路が残されている。

7) 印旛沼放水路（新川）

千葉市から栄町に至る全長約 50km のサイクリングロードの一部が印旛沼放水路の土手に位置する。

8) 建設予定地周辺の広大な台地

建設予定地周辺に、約 15ha の平坦な畑地が広がる。

9) 台地からの眺望

台地から見下す先の印旛沼放水路（新川）との高低差は、約 20m。

⑤周辺の既存施設

泉カントリー倶楽部（年間利用者数：約 65,000 人）・総武カントリークラブ（年間利用者数：約 148,000 人）・松崎工業団地（約 40 社が進出）・印旛西部公園（年間利用者数：約 23,000 人）・学校法人西村学園（印西しおん幼稚園）・学校法人時任学園・障がい者支援施設（いんば学舎）・サバイバルゲームフィールド（2 km 内に位置する 3 施設の年間利用者数：約 30,000 人）・吉野牧場（約 130 頭の乳牛を飼育）・飲食店等（カフェや果樹園など）・東京成徳大学（学生数：829 人）・八千代市少年自然の家（年間利用者数：約 12,000 人）・泉複寺薬師堂（国指定文化財）・印旛歴史民俗資料館・銅造不動明王立像（国指定文化財）など。

⑥地域の課題

- 1) 少子高齢化
- 2) インフラ不足（上下水道・道路・公共交通）
- 3) ポイ捨て・不法投棄・防犯
- 4) 防災対策
- 5) 農業の担い手不足
- 6) 土地利用のコントロール

⑦地域振興策のアイデアリスト

上記①の具体策として、上記②で記述する「理念・目的」及び上記③で記述する「地域に求められる将来像」を達成し、上記⑥で記述する「地域の課題」を解決すべく、上記④で記述する「地域の魅力や優位点」を念頭に置きながら、上記⑤で記述する「周辺の既存施設」との連携効果を踏まえ、下記の1)～4)のとおり、地域振興策のアイデアを100策抽出した。

1) 地域の持続と再生に必要なインフラ整備等

水道整備・下水道整備・管理負担の大きい印西市道の付け替え・道路整備（待避所）・道路の危険箇所修繕・カーブミラー・ガードレール・雨水排水路の整備・防犯灯・防犯監視カメラ・印西市ふれあいバス路線の延伸・オンデマンド交通・マリナー構想・地域振興施設の無料化（関係地域住民）・Uターン等助成・御神輿修理・自主防災への支援・縁側カフェ・ゲストハウス・健康支援の拡充

2) 地域内外の人々が集う多機能な複合施設

サンセットスパ&リゾート・地域住民サロン・全国公募による外食店・ベンチャー企業の事務所・小規模な多目的店舗・環境NPOの事務所・農作物の直売所・商品開発1（お土産や通販可能な食品）・商品開発2（ジェラートなどのスナック系）・商品開発3（ハンバーガーなどのご当地メニュー）・商品開発4（酒類）・スコーラ機能・多目的研修室・ギャラリースペース・カルチャー教室・環境図書室・歴史浪漫の里構想・サイクル駐輪場・レンタルサイクル等・アウトドア用具の倉庫・カヌー類置場・屋内カーリング場・大規模な花畑迷路・ちびっこランド・水遊びの池・ドッグラン・イベント広場・サイクリング愛好者の駐車場・ふれあい動物公園・ダチョウ園・足湯・もぎとり農園・クライנגアルテン（日帰り型）・クライנגアルテン（滞在型）・バーベキュー場・キャンプ場・燻製器・石釜・釜炊場・焚火場・パラグライダー等の離発着場・EV充電ステーション・温水洗車場・食品残渣地域循環圏構想・プレミアム地域通貨・町内会ホームページ・施設整備記録映画・地域の魅力紹介映像・余暇グルメ情報発信拠点構想・暮らしの観光・植栽管理業務等の受託

3) 次期施設からの排熱利用事業等

排熱利用事業者の誘致・排熱利用事業の経営・トランスヒートコンテナ・メタンガスの地域供給・排熱供給（泉カントリー倶楽部）・可搬式蓄電池・給食センター・猛禽類の営巣場・煙突展望台・清掃工場壁面等の活用・防災拠点化構想・調整池の活用

4) 地域・農作物のブランド化を推進する里地里山の保全と活用

市民の森構想・森の畑構想・薪の生産・鳥類の巣箱・林間アスレチック・田んぼの自然公園・土水路脇に木道・イチゴの畦・里山トイレ・川魚等の養殖・小魚の釣堀・企業米・1口オーナー米・十坪家庭田園・棚田等・里地里山ジョギングロード・散策路コース等

(5) 地域低炭素化モデル事業の採択

環境省が所掌する「廃棄物焼却施設の余熱等を利用した地域低炭素化モデル事業」は、廃棄物焼却施設から恒常的に排出される熱を発電に供するのみならず、再生可能エネルギーとして地域の施設に供給し、地球温暖化対策の強化・地域の低炭素化を図ることを目的とするものである。

事業内容は2つに分類され、「実現可能性調査事業」は、廃棄物焼却施設からの余熱や発電した電気を地域において有効活用するために、余熱見込量や事業採算性の検討等を行い、事業としての実現可能性を調査するもの。

「設備等導入補助事業」は、廃棄物焼却施設からの余熱等を地域の需要施設に供給するための付帯設備（熱導管、電力自営線、熱交換器、受電設備等）及び需要設備（余熱等を廃棄物処理業者自らが利用する場合に限る）への補助を行うものである。

補助対象者は、民間企業、都道府県・市町村・特別区及び地方公共団体の組合、その他環境省が適当と認める者としている。

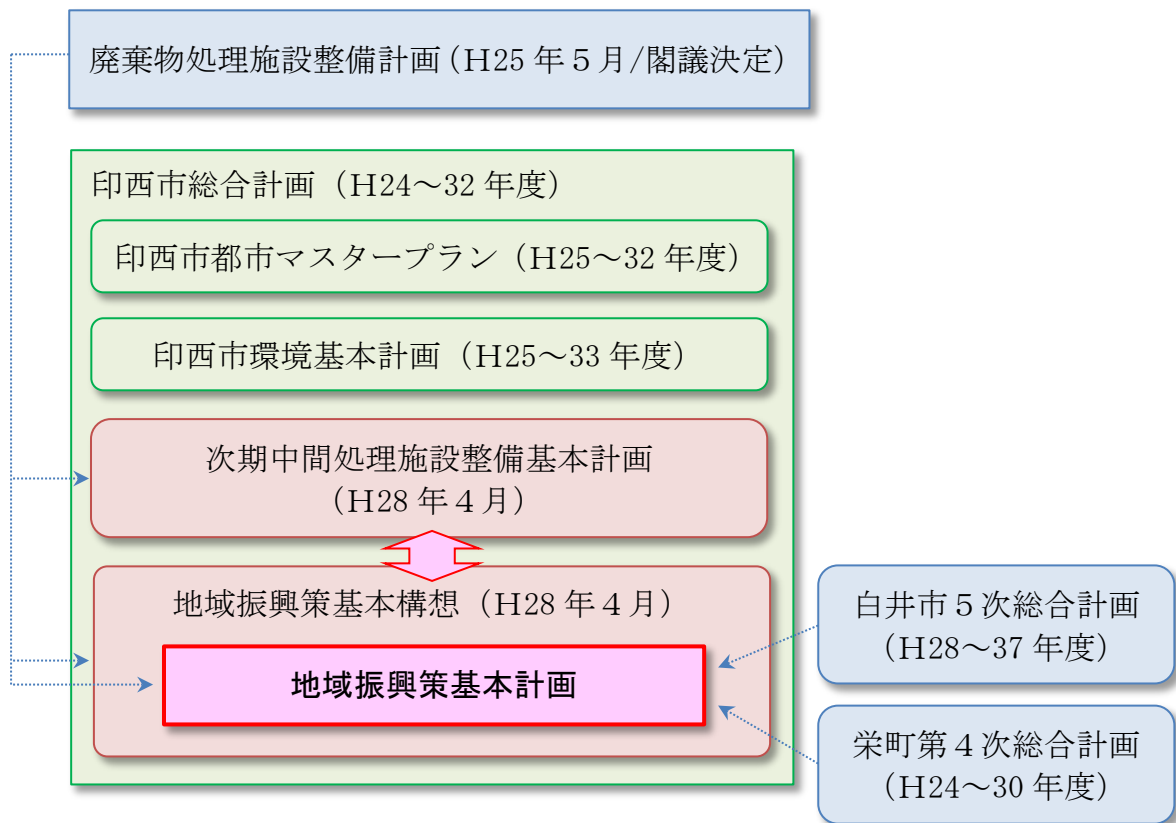
本モデル事業は公募により選考が進められるが、平成29年度（2017年度）の1次公募において下記内容で応募し、平成29年（2017年）5月29日に採択された。

事業者名	区分	事業の名称	事業概要
印西地区環境整備事業組合	実現可能性調査事業	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業における（仮称）地域まるごとフィールドミュージアムの整備・運営事業	新清掃工場から得られる蒸気、温水及び電気を周辺地域にて最大限有効活用するために、農作物等の直売所、野菜工場、温浴施設などの熱需要施設への供給、蒸気の農業ハウス等への再利用、二酸化炭素の農業利用等について、実現可能性調査を実施する。

4 関連計画の整理

事業用地が所在する印西市における計画を含めた関連計画を下図のとおり整理する。

なお、廃棄物処理施設整備計画が平成 30 年度（2018 年度）に改めて閣議決定される予定であること及び印西市の各計画が平成 33 年度（2021 年度）以降に改訂されることなどから、今後、地域振興事業の各段階において、最新の関連計画の内容を把握し、必要に応じて地域振興事業にフィードバックさせる必要がある。



(1) 廃棄物処理施設整備計画（平成 25 年（2013 年）5 月/閣議決定）

廃棄物処理施設整備計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 5 条の 3 第 1 項の規定により、環境省が 5 年ごとに案を作成し閣議決定を求める廃棄物処理施設整備事業に関する計画である。

平成 25 年（2013 年）5 月に閣議決定された最新の本計画については、廃棄物処理施設の重点的、効果的かつ効率的な整備を進めることのほか、低炭素社会及び東日本大震災以降の災害対策への意識の高まり等、社会環境等の変化を踏まえた計画としている。

【基本的理念】

3 R の推進

強靱な一般廃棄物処理システムの確保

地域の自主性及び創意工夫を活かした一般廃棄物処理施設の整備

【重点目標】

- 排出抑制、最終処分量の削減を進め、着実に最終処分を実施
 - ・ごみのリサイクル率 22%→26%
 - ・最終処分場の残余年数 平成 24 年度（2012 年度）の水準（20 年分）を維持
- 焼却時に高効率な発電を実施し、回収エネルギー量を確保
 - ・期間中に整備されたごみ焼却施設の発電効率の平均値 16%→21%
- し尿及び生活雑排水の処理を推進し、水環境を保全
 - ・浄化槽処理人口普及率 9%→12%

【廃棄物処理システムの方向性】

- 市町村の一般廃棄物処理システムを通じた3Rの推進
- 地域住民等の理解と協力の確保
- 広域的な視野にたった廃棄物処理システムの改善
 - ・広域圏の一般廃棄物の排出動向を見据え、廃棄物処理システムの強靱化の観点も含め、施設整備を計画的に進める。
 - ・ストックマネジメントの手法を導入し、既存の廃棄物処理施設の計画的な維持管理及び更新を推進し、施設の長寿命化・延命化を図る。
 - ・資源の有効利用や地球温暖化対策の観点から具体的な指標を求め、より優れたものを優先的に整備する。
- 地球温暖化防止及び省エネルギー・創エネルギーへの取組にも配慮した廃棄物処理施設の整備
 - ・廃棄物処理施設の省エネルギー化・創エネルギー化を進め、地域の廃棄物処理システム全体で温室効果ガスの排出抑制及びエネルギー消費の低減を図る。
- 廃棄物系バイオマスの利活用の推進
 - ・廃棄物焼却施設の熱回収とメタン回収施設を組み合わせるなど、効率的なエネルギー回収を進める。
- 災害対策の強化
 - ・廃棄物処理施設を、通常の廃棄物処理に加え、災害廃棄物を円滑に処理するための拠点と捉えなおし、広域圏ごとに一定程度の余裕を持った焼却施設及び最終処分場の能力を維持し、代替性及び多重性を確保する。
 - ・地域の核となる廃棄物処理施設においては、施設の耐震化、地盤改良、浸水対策等を推進し、廃棄物処理システムとして強靱性を確保する。
- 廃棄物処理施設整備に係る工事の入札及び契約の適正化

(2) 印西市総合計画（平成 23 年（2011 年）3 月）

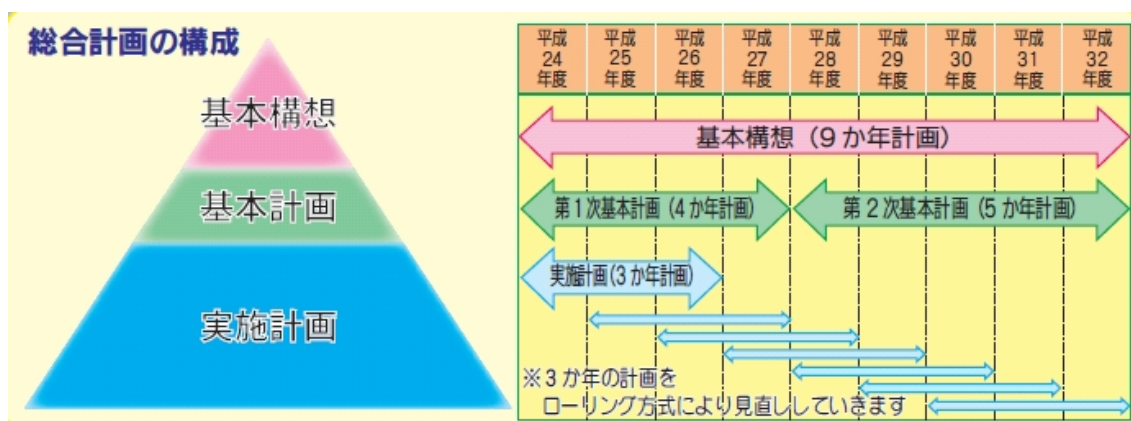
印西市総合計画は、印西市のめざすべき将来都市像を掲げ、その実現に向けた政策を展開していくための指針として定めるものであり、市の最上位計画となるものである。

合併後におけるそれぞれの地域が持つ豊かな自然や伝統文化、整備された都市基盤、広大な農地などを最大限に活かした魅力あるまちづくりを計画的に進めていくために策定したものである。

基本構想は、市の将来都市像を描き、それを実現するための「基本目標」と「政策」を示すもので、目標年度を平成 32 年度（2020 年度）としている。

基本計画は、基本構想に掲げた「基本目標」と「政策」に沿って、その具体的な「施策」を示すもので、前期計画となる第 1 次基本計画の計画期間を平成 24 年度（2012 年度）から平成 27 年度（2015 年度）までの 4 か年、後期計画となる第 2 次基本計画の計画期間を平成 28 年度（2016 年度）から平成 32 年度（2020 年度）までの 5 か年としており、現在は第 2 次基本計画の期間内である。

実施計画は、基本計画に掲げた「施策」を達成するための手段として、主要な「事業」を示すもので、基本計画開始年度に 3 か年の計画を策定し、ローリング方式により見直しを行うものとしている。



【印西市の将来都市像】

ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい

【まちづくりの基本目標】

将来都市像を実現するため、6つの分野の基本目標と 20 本の政策、55 本の施策を掲げ、総合的・計画的なまちづくりを進めていくこととしている。

基本目標 1 《生活環境》

恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる

基本目標 2 《健康福祉》

やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる

基本目標 3 《産業振興》

地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる

基本目標 4 《教育・文化》

健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる

基本目標 5 《都市基盤》

快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる

基本目標 6 《住民自治・協働・行財政》

市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる

吉田区は、総合計画の中で位置付けられている土地利用基本構想における将来の土地利用の方針の中で、「緑の共生ゾーン」に位置付けられている。

「緑の共生ゾーン」は、人、自然、都市が交流・共生するゾーンであり、今後も大都市近郊の貴重な自然環境の保全・活用を図り、人々が自然の大切さを学ぶ場としての機能を高めていくこととしている。

【緑の共生ゾーン】

台地部の樹林地や緑地、畑が広がり集落が形成された地域

(3) 印西市都市マスタープラン（平成 25 年（2013 年）3 月）

印西市都市マスタープランは、総合計画で掲げている将来都市像「ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい」の実現に向けた都市計画分野における目標や方針を示した計画であり、計画年度は平成 25 年度（2013 年度）～平成 32 年度（2020 年度）（目標年度）としている。

【都市づくりの基本理念】

「継承」と「創生」の融合 ～私たちのふるさととなる都市づくりに向けて～

【都市づくりの目標】

将来都市像の実現に向けて、基本理念を踏まえ、4つの目標を掲げている。

都市づくりの目標 1

豊かな自然と調和し、持続的に発展する都市づくり

都市づくりの目標 2

まちの元気や魅力が実感できる都市づくり

都市づくりの目標 3

笑顔輝く便利で快適な暮らしのある都市づくり

都市づくりの目標 4

安全で安心感のある都市づくり

吉田区は、都市マスタープランの中で位置付けられている将来都市構造における「土地利用ゾーン」の中で、「緑の共生ゾーン」に位置付けられている。

「緑の共生ゾーン」は、良好な自然と集落地が調和する土地利用を進め、市民が都市近郊の貴重な自然環境の大切さを学ぶ場として、保全・活用を促進していくこととしている。

【緑の共生ゾーン】

市街化調整区域のうち、台地部の樹林地や緑地、畑が広がり、集落地が形成された地域

また、吉田区は、身近な地域における都市づくりの方向をより具体的な方針として示すことを目的とした地区別構想の中で、宗像地区に区分される。

宗像地区の方向としては、「豊かな水辺の風景がもたらす自然の恵みを感じられるまち」を地区のキャッチフレーズとし、印旛沼の雄大な眺めや里山などの地域資源を保全・活用するとともに、集落地の良好な居住環境の保全により、豊かな水がもたらす自然の恵みを感じられるまちの形成を目指すとしている。

(4) 印西市環境基本計画（平成 25 年（2013 年）3 月）

印西市環境基本計画は、「印西市環境基本条例」に基づき、良好な環境づくりに向けた基本的な考え方、目標及び手段を示し、市の個別計画や事業などと相互連携しながら、施策を展開していくものであり、計画年度は平成 25 年度（2013 年度）～平成 33 年度（2021 年度）年度としている。

【印西市が目指す将来環境像】

「ひと まち 自然」が調和し

豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい

【都市づくりの目標】

印西市が目指す将来環境像を実現するために、5つの基本目標を掲げている。

基本目標 1（自然環境）

緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

基本目標 2（生活環境）

安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

基本目標 3（都市環境）

都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

基本目標 4（地球環境）

低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

基本目標 5（人づくり）

環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して

吉田区及び地域振興策に関わる主な施策展開について、以下に整理する。

【基本目標 1 関連：緑や水辺を守り育てよう】

後世に豊かな自然環境を継承していくとともに、自然と調和した魅力的なまちづくりを展開するため、市民・事業者・市の協働により農業を支え、樹林地の維持・管理を行うなど、里山を守り・育む「しくみ」づくりに取り組むこととしている。

【基本目標 1 関連：生きものと共存しよう】

人と生きものが共存する環境づくりを図るため、市民・事業者・市の協働による自然環境調査や自然探検隊を継続するとともに、希少生物の保護に向けた戦略の策定、外来種の移入などに対する監視等を行うこととしている。

【基本目標 3 関連：歴史・文化が感じられるまちにしよう】

歴史文化的な環境を継承し、また、市民が地域の歴史にふれられるよう、指定文化財の保全を進めるほか、市に残る有形・無形の文化財に関する調査を行い、観光事業への活用や収集した資料等の展示公開などを進めることとしている。

【基本目標 4 関連：地球にやさしいまちをつくろう】

温室効果ガスの一層の削減を図っていくため、市の事務事業に伴う省エネ対策を着実に推進するほか、情報提供の充実や環境家計簿の普及等による家庭・事業所等での省エネ行動を促進することとしている。

また、地域特性を活かした再生可能エネルギー活用の検討や太陽光発電機器等の導入に対する補助を行うほか、公共交通の利用環境を向上するなど、温室効果ガスの抑制に向けたまちづくりを進めることとしている。

【基本目標 5 関連：環境を考え行動をする人を育てよう】

学校においては、環境保全に向けた次代の人材を育成するため、体験学習の実施や環境コーナーの設置などを実施しており、これら施策の一層の充実を図ることとしている。

地域においても環境講座の開催や環境に関する図書・資料の紹介等を図り、環境について知り・学ぶ機会の充実を図ることとしている。

【基本目標 5 関連：行動の実践を促すしくみをつくろう】

市の環境の現状や様々な保全活動の状況など、環境情報を地域で共有していく必要があり、広報紙やホームページ等を通じた、情報提供体制の強化を図ることとしている。

また、市民や事業者が環境保全活動に参画する契機として、環境に関するイベント等を開催するほか、自発的に環境保全活動に取り組むNPO等を積極的に支援することとしている。

(5) 次期中間処理施設整備基本計画（平成 28 年（2016 年） 4 月）

組合が策定した次期中間処理施設整備基本計画は、次期施設の整備基本計画で、施設規模の見込み・処理方式・公害防止基準・エネルギーバランス・全体配置・アクセス道路・事業方式・整備スケジュールなどを定める。

次期施設と地域振興施設は、整備協定書第 5 条（P11 参照）で規定しており、互いに連携する恒久施設として整備及び事業運営を図るものである。

組合ホームページ掲載アドレス

<http://www.inkan-jk.or.jp/creen/28-jiki-sisetu-kihonkeikaku-.html>

(6) 地域振興策基本構想（平成 28 年（2016 年） 4 月）

組合が策定した地域振興策基本構想は、公共公益的な波及効果を踏まえた次期施設の周辺対策に関する基本構想で、地域に求められる将来像や地域振興策のアイデアリストなどを定める。（P16 参照）

組合ホームページ掲載アドレス

<http://www.inkan-jk.or.jp/creen/28-jiki-chiiki-kihonkousou-.html>

(7) 関連計画を踏まえた地域振興策の方向性

① 排熱エネルギーを最大限活用

次期施設から生み出される排熱エネルギーについて、熱の直接利用のほか、発電により電気に転換して利用するなどし、排熱エネルギーを最大限活用することで、地域低炭素化及び温室効果ガスの一層の削減に寄与する地域振興策を展開する。

② 自然環境を守りながら活用

千葉ニュータウン中央駅・印西牧の原駅・印旛日本医大駅を中心に形成される都市部の近郊に位置する貴重かつ豊かな自然環境を「守りながら活用」できる地域振興策を展開する。

③ 知る・学ぶ・体験に関する機能

各種の環境学習のほか、印西地区の歴史・文化・伝統等に触れることを通じ、「知る・学ぶ・体験」に関する機能を持つ地域振興策を展開する。

④ 協働と交流

環境NPO等との協働のほか、都市住民と地域住民の交流を図ることができる地域振興策を展開する。

⑤ 若者の独立・就農・就労等

地域における活力の向上及び持続可能性を得るべく、若者の独立・就農・就労等につながる地域振興策を展開する。

5 事業用地及び周辺地域の現況

事業用地及び周辺地域の現況について整理する。

(1) 地勢

事業用地が所在する印西市は、東京都心から約 40km、千葉市から約 20km、成田国際空港から約 15km に位置し、西は我孫子市・柏市・白井市に、南は八千代市・佐倉市・酒々井町に、東は成田市・栄町に、北は利根川を隔てて茨城県に接している。

また、南東部を印旛沼、北西部を手賀沼、北部を利根川に囲まれ、標高 20 から 30m 程度の平坦な台地と、湖沼周辺の低地により構成されている。また、台地と低地部の境には、低地部から台地に入り込む谷津と呼ばれる地形と斜面緑地によって、地域の特徴的な景観が形成されている。地質は、台地は洪積層に属し関東ローム層であり、低地部は沖積層に属し一般に肥沃な土地が広がっている。（「印西市ホームページ」引用・参考）

約 10km 圏内には、印西市のほぼ全域、白井市・栄町の一部のほか、八千代市のほぼ全域、柏市・我孫子市・成田市・佐倉市・四街道市・千葉市・船橋市・利根町（茨城県）の一部、計 12 自治体が含まれる。

また、約 20km 圏内には、上記自治体を含め千葉県内の 19 自治体、茨城県内の 7 自治体、計 26 自治体が含まれる。

事業用地の位置と周辺自治体(約20km圏内)



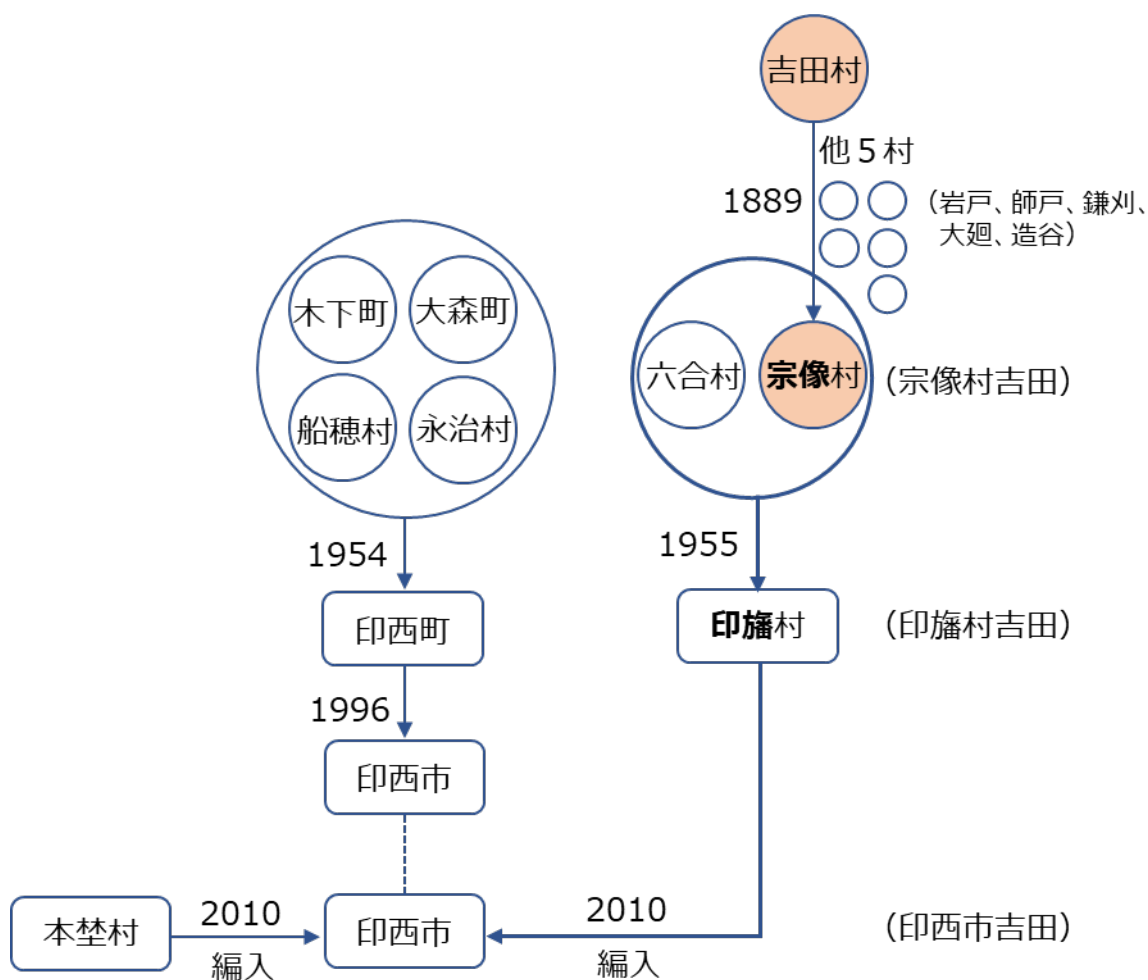
事業用地の位置と周辺自治体(約10km圏内)



(2) 歴史

吉田区は町村制施行に伴い、明治 22 年（1889 年）に岩戸村、師戸村、鎌苧村、大廻村、造谷村とともに吉田村が合併し、印旛郡宗像村吉田となる。

その後、昭和 30 年（1955 年）に六合村と宗像村が合併し、印旛村吉田となり、平成 22 年（2010 年）に本埜村と印旛村が印西市に編入し、現在の印西市吉田となった。



吉田区を含む印西市は、北総地域の豊かな自然環境の中で、古くから、長い歴史をかけ形成された市街地、有形無形の文化財や伝統的な風習等があり、歴史、文化、経済的にも結びつきの強い地域である。

【馬】

旧吉田村は稲作中心の村で、時期は定かではないものの、豪族の馬場があり、馬の飼育場が存在したという。吉田区内に今でも残る地名「入場」、「郷」、「東場」、「馬場台」はその名残といわれる。

【宗像神社】

古来、利根川が度々氾濫し、現在の印旛沼周辺はよく浸水し、田畑に影響したという。この水害を鎮めるため、宗像神社を祀ったといわれる。

宗像大祭は毎年盛大に行われているが、平成 17 年（2005 年）以降、神輿の担ぎ手不足等で神輿巡業（宮出し）については 3 年ごとに変更されている。

地元の宮司は 15 年ほど前から継承者がいなくなり、その後は同地区宗像神社（平賀・鎌苅）の宮司に依頼し、途切れることなく以前同様の神事が守り継がれている。

【印旛沼】

吉田区の暮らしと印旛沼は結びつきが深い。印旛沼自体は江戸時代より干拓の挑戦が続けられていたがいずれもうまくいかず、昭和中盤から 30 年以上の歳月をかけて干拓された。

なお、印旛沼は干拓後、面積が約半分となった。

【千葉ニュータウン】

吉田区から 5 km 圏内にある千葉ニュータウンは、首都圏における良好で計画的な住宅・宅地供給を目的として、昭和 41 年（1966 年）に事業計画が策定され、昭和 54 年（1979 年）に入居が開始された。

近年、事業の進展に伴いめざましい発展を遂げている。

(3) 気象

印西市の気候は、内陸型に近く、年間平均気温は15度前後と比較的温暖で、年間降水量は約1,300mm前後と夏は涼しく冬は暖かく、過ごしやすい環境にある。（「新「印西市」誕生 印西市・印旛村・本埜村合併の記録」引用・参考）

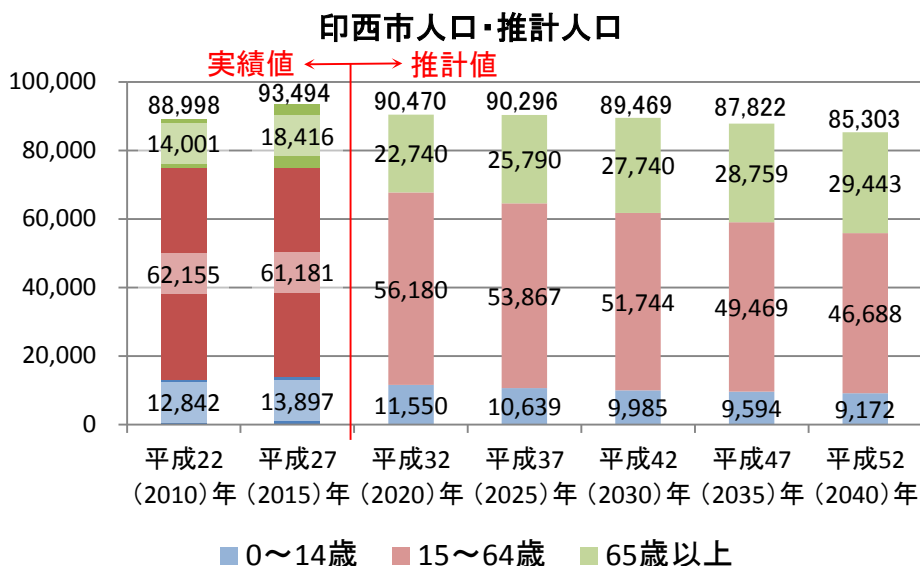
(4) 人口

印西市の人口は、千葉ニュータウンの整備に伴い増加しており、平成29年（2017年）12月末時点の人口は99,286人、世帯数は39,043世帯である。一方で、1世帯当たりの人数は、減少傾向にある。

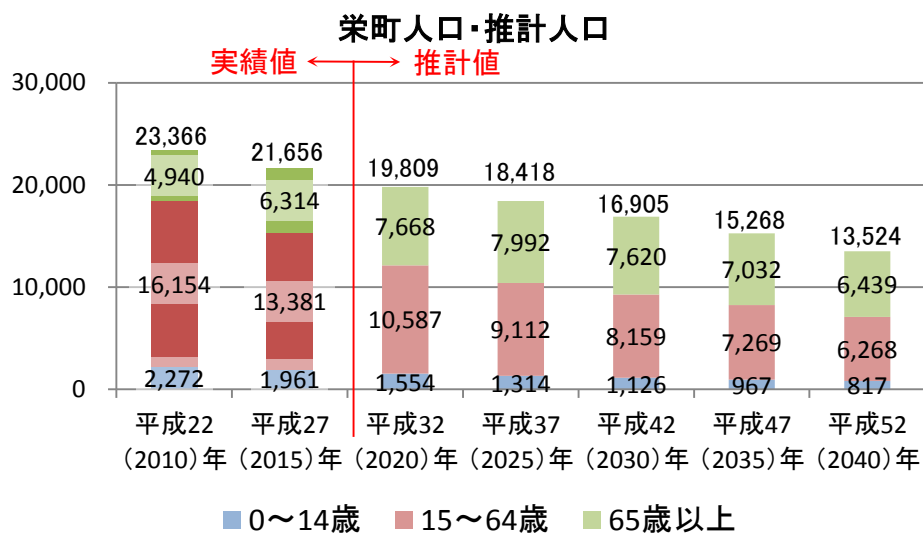
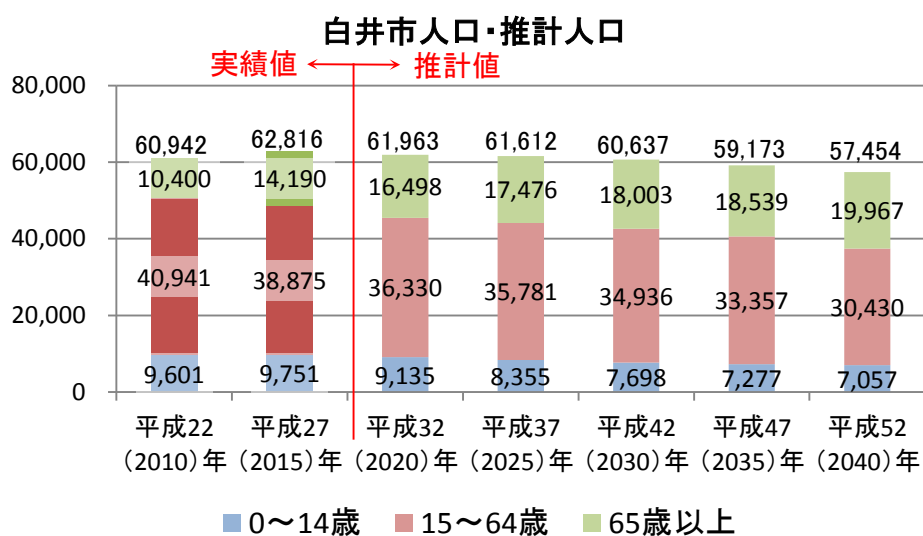
年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）生産年齢人口（15～64歳）の割合は県の数値と比較すると高く、相対的に若い人口構造にあるものの、高齢者人口（65歳以上）の割合は増加傾向にあることから、着実に少子高齢化が進行している状況にある。（「印西市都市マスタープラン」引用・参考）

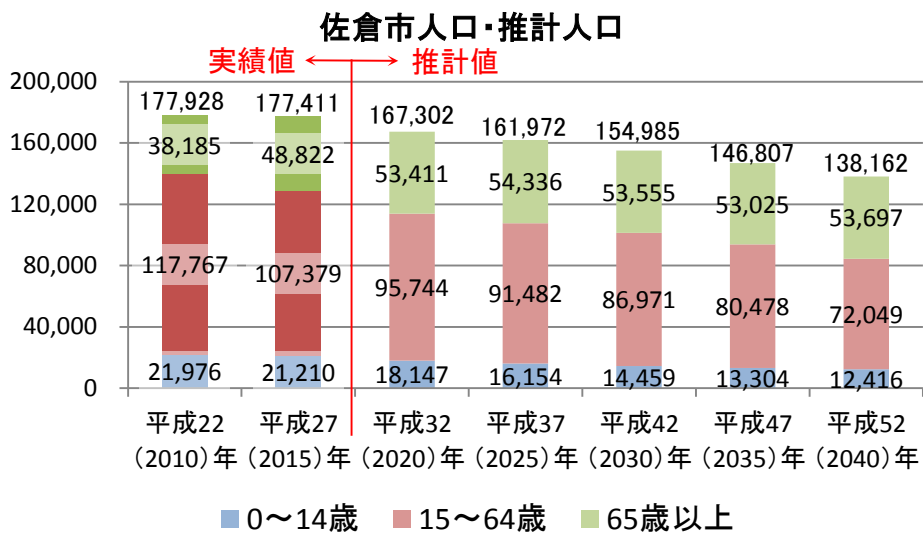
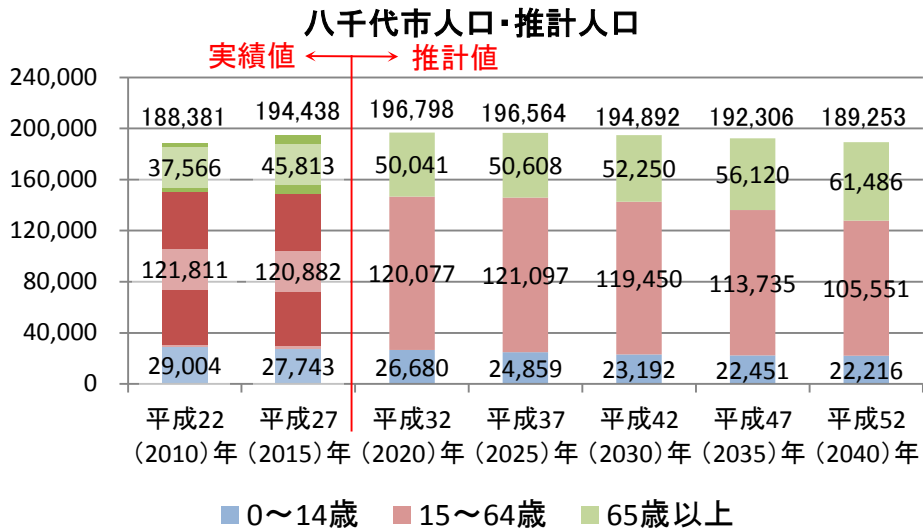
吉田区においては、近年人口は微減傾向にあるものの、世帯数は概ね横ばいであることから、子どもが親元を離れるなど、世帯からの人員減による人口減少傾向がみられる。

		平成25（2013）年 12月末時点	平成26（2014）年 12月末時点	平成27（2015）年 12月末時点	平成28（2016）年 12月末時点	平成29（2017）年 12月末時点
人口	吉田区	447	450	446	423	403
	印西市	93,088	93,722	95,040	97,263	99,286
世帯数	吉田区	166	173	172	169	167
	印西市	34,898	35,629	36,572	37,826	39,043
1世帯当たり人数	吉田区	2.69	2.60	2.59	2.50	2.41
	印西市	2.67	2.63	2.60	2.57	2.54



印西市における平成32年（2020年）以降の推計値をみると、人口減少のスピードにも増して急速に高齢者人口比率が高まるとされている。この傾向は、他の組合構成市町である白井市・栄町のほか、吉田区に近い八千代市や佐倉市でも同様の傾向にある。特に、栄町と佐倉市においては、他の行政区と比較して、人口減少のスピードが速いと推計されている。





(5) 商圈人口

約10km圏内には、印西市のほぼ全域、白井市・栄町の一部のほか、八千代市のほぼ全域、柏市・我孫子市・成田市・佐倉市・四街道市・千葉市・船橋市・利根町（茨城県）の一部、計12自治体が含まれる。

この内、関係市町である印西市・白井市・栄町のほか、ほぼ全域が含まれる八千代市と、事業用地近傍に大規模住宅群（ユーカリが丘）が位置し、比較的事業用地へのアクセスが良いと考えられる佐倉市の計5自治体における総人口を合計すると、約56万人を有す一大商圈である。（平成29年（2017年）12月末現在）

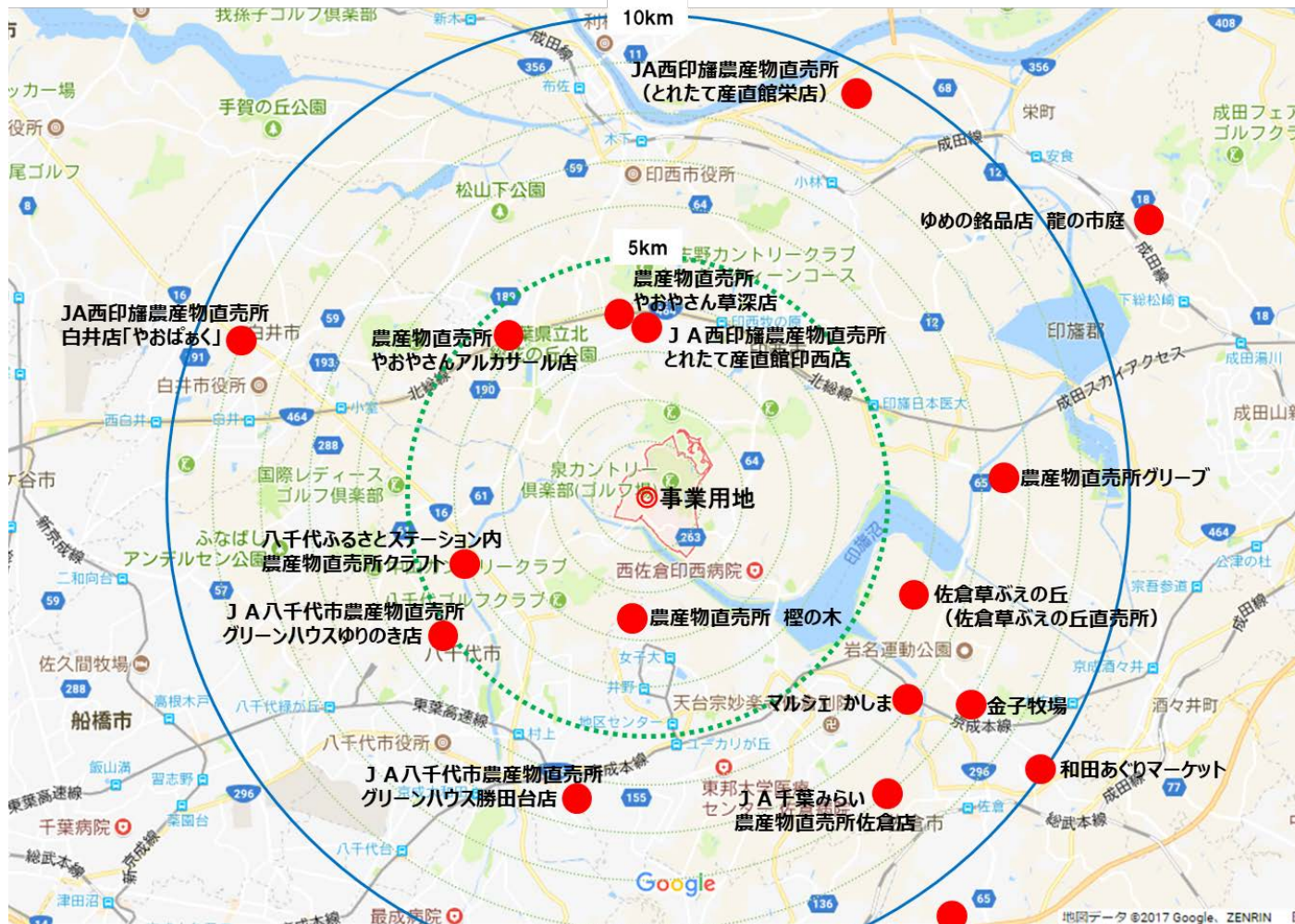
なお、その中でも、地域振興施設のリピーター居住地として大きく期待される約5km圏内は、5箇所の大規模住宅群（千葉ニュータウン中央駅周辺・印西牧の原駅周辺・印旛日本医大駅周辺・ユーカリが丘周辺・米本団地周辺）が存在することもあり、約16万人を有している。（平成29年（2017年）12月末現在）



地域振興策の核となる施設については、排熱エネルギーを多量に活用し、賑わいの拠点となるスパ（天然温泉）を想定している。周辺地域には、温浴施設が何か所か存在するが、周辺は空白地帯となるほか、天然温泉による大規模な露天風呂を主軸とした温浴施設はみられない。また、農作物直売機能や温水プール機能が付帯している温浴施設は存在するが、今回想定しているワンストップで多様な楽しみ方ができる多機能な複合施設は存在しない。



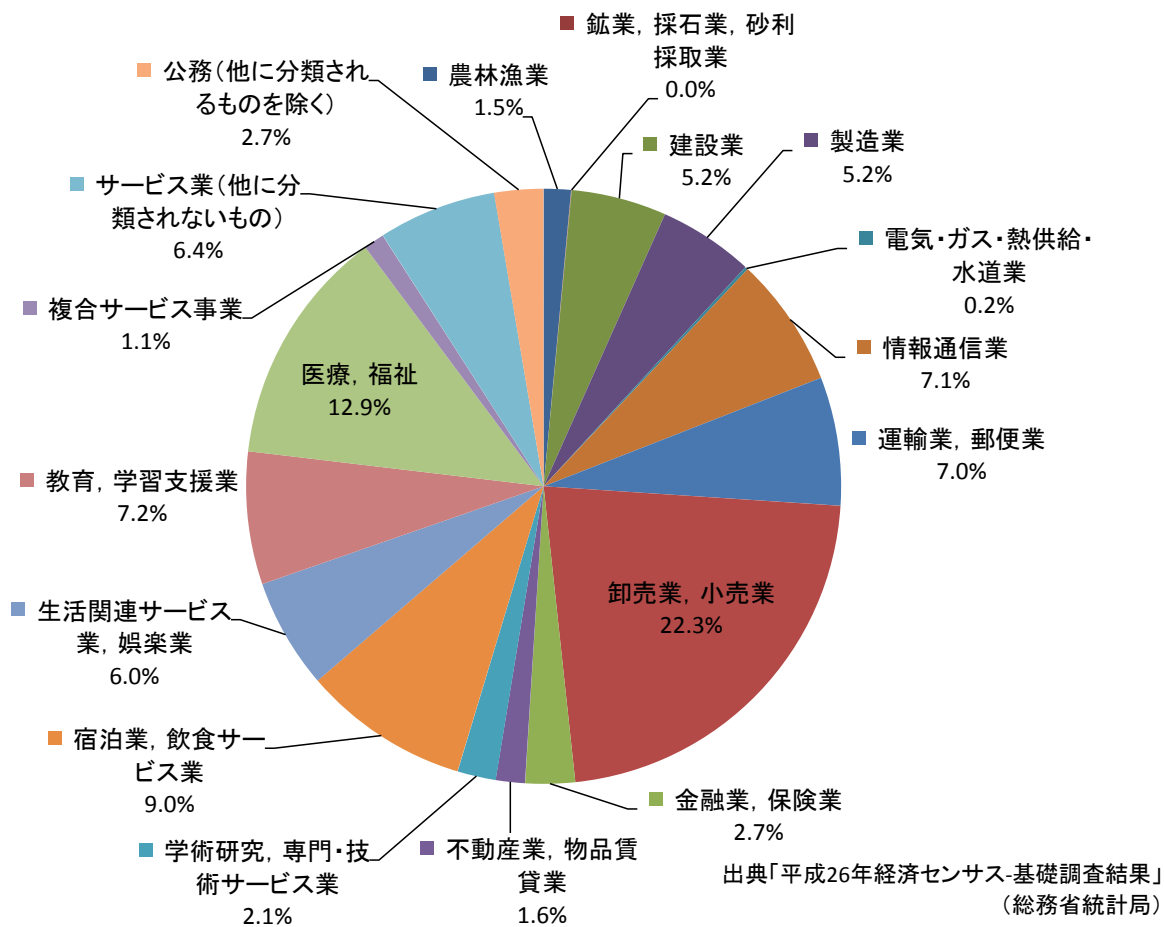
約 10km 圏内に存在する農産物等直売施設は複数存在するが、比較的小規模な施設が多く、ある程度の規模の施設においても、直売のみの単体機能の施設であり、今回想定しているワンストップで多様な楽しみ方ができる多機能な複合施設は存在しない。



(6) 産業

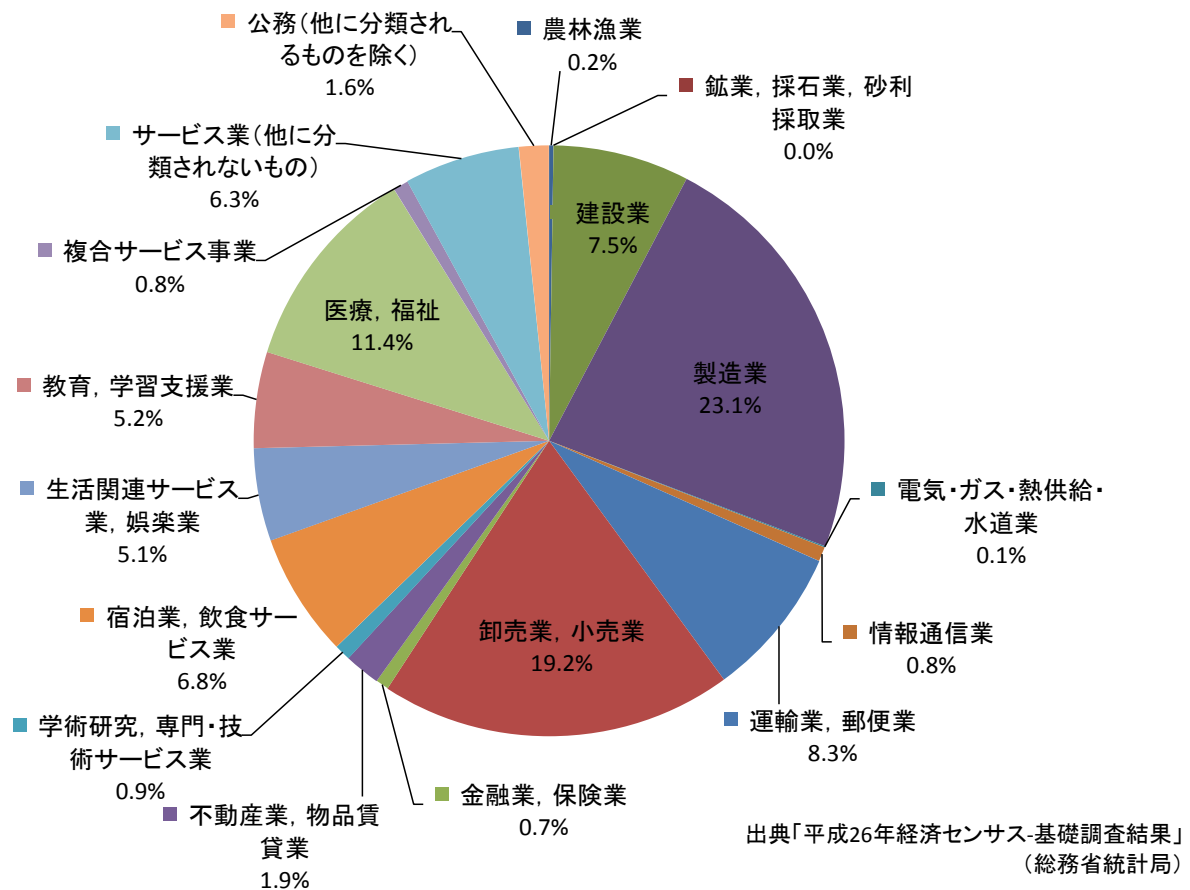
印西市の平成26年（2014年）産業分類別従業者数は、「卸売業、小売業」がもっとも多く22.3%を占めており、次いで「医療、福祉」12.9%、「宿泊業、飲食サービス業」が9.0%である。一方で、農林漁業従事者数は全体の1.6%である。

平成26年産業(大分類)別従業者数（印西市）



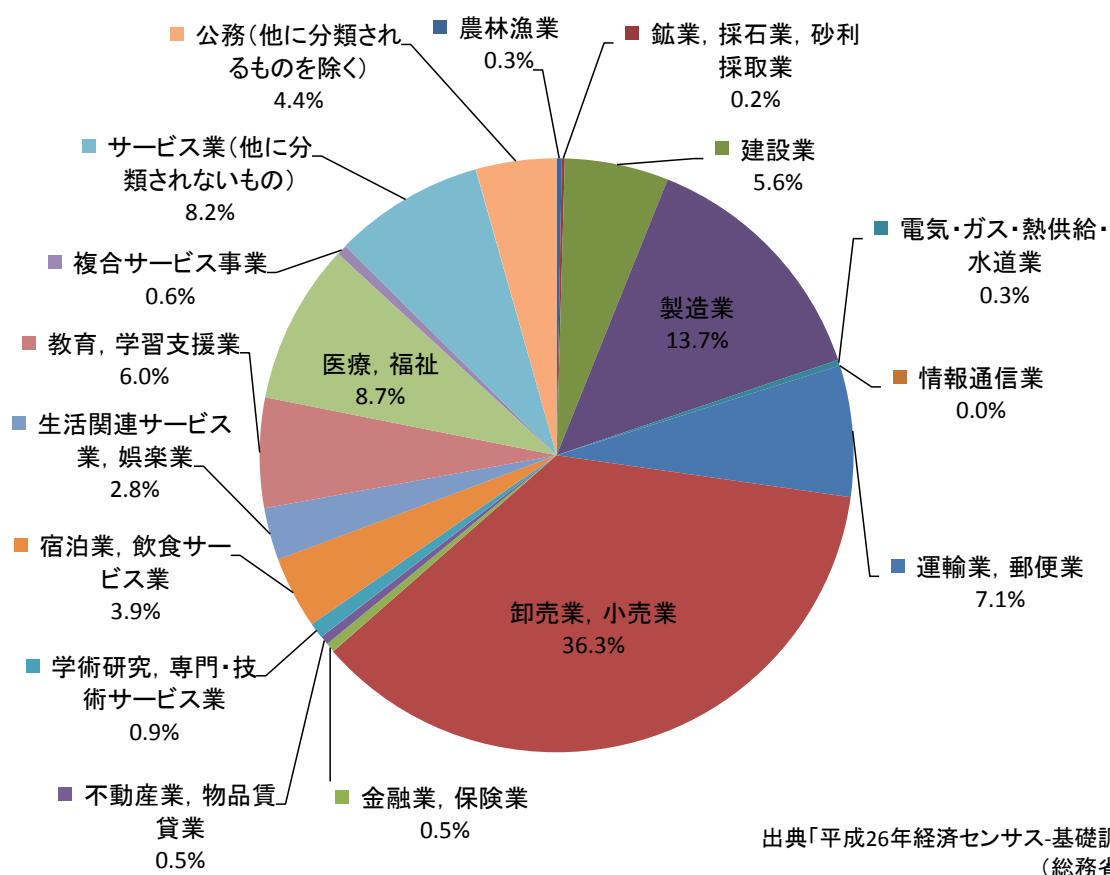
白井市の平成26年（2014年）産業分類別従業者数は、「製造業」がもっとも多く23.1%を占めており、次いで「卸売業、小売業」19.2%、「医療、福祉」が11.4%である。一方で、農林漁業従事者数は全体の0.2%である。

平成26年産業(大分類)別従業者数（白井市）



栄町の平成 26 年（2014 年）産業分類別従業者数は、「卸売業、小売業」がもっとも多く 36.3%を占めており、次いで「製造業」13.7%、「医療、福祉」が 8.7%である。一方で、農林漁業従事者数は全体の 0.3%である。

平成26年産業(大分類)別従業者数（栄町）



(7) 農業

印西市の平成 27 年（2015 年）農業産出額（推計）によると、野菜が 254 千万円でもっとも大きく、次いで 251 千万円の米と続き、花きは 90 千万円、果実が 30 千万円である。

野菜において、農業経営体数では、だいこん、ほうれんそう、きゅうりが 300 経営体以上であるが、作付面積では、だいこん、ほうれんそうのほか、トマトの面積が大きい。

果実においては、日本なしの栽培面積が多く、畜産物においては、牛・豚・鶏・その他の合計で 40 千万円の産出額である。（出典「わがマチ・わがムラ」）

【印西市の農業産出額（推計）と農業経営体数】

■ 農業産出額(推計)		■ 農業経営体数	
合計	692 千万円	1,412 経営体	
耕種計	651 千万円		
米	251 千万円	1,204 経営体	
麦類	0 千万円	2 経営体	
雑穀	0 千万円	10 経営体	
豆類	12 千万円	171 経営体	
いも類	8 千万円	170 経営体	
野菜	254 千万円	491 経営体	
果実	30 千万円	85 経営体	
花き	90 千万円	61 経営体	
工芸農作物	1 千万円	5 経営体	
種苗・苗木類・その他	5 千万円		
畜産計	40 千万円		
肉用牛	0 千万円	1 経営体	
乳用牛	23 千万円	3 経営体	
うち生乳	20 千万円		
豚	X	2 経営体	
鶏	7 千万円		
うち鶏卵	X	2 経営体	
うちブロイラー	-	-	
その他畜産物	X		
加工農産物	-		

注1：農業産出額(推計)と農業経営体数についてはH27年値。
注2：農業経営体数の合計は実数のため内訳と一致しない。

【印西市の農業関連データ】

販売を目的とした農畜産物の作付・飼養状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物

	農業経営体数	作付面積
水稻	1,204 経営体	2,120 ha
陸稲	4 経営体	1 ha
麦類		
小麦	2 経営体	X
大麦・裸麦	-	-
そば	1 経営体	X
その他雑穀	9 経営体	1 ha
いも類		
ばれいしょ	141 経営体	5 ha
かんしょ	75 経営体	5 ha
豆類		
大豆	81 経営体	13 ha
小豆	30 経営体	1 ha
その他の豆類	112 経営体	14 ha
工芸農作物		
さとうきび	-	-
たばこ	1 経営体	X
茶	-	-
てんさい	-	-
こんにゃくいも	1 経営体	X
その他工芸農作物	3 経営体	1 ha

■ 野菜

	農業経営体数	作付面積
だいこん	326 経営体	16 ha
にんじん	148 経営体	X
さといも	277 経営体	X
やまのいも	12 経営体	X
はくさい	276 経営体	8 ha
キャベツ	198 経営体	6 ha
ほうれんそう	309 経営体	18 ha
レタス	39 経営体	1 ha
ねぎ	286 経営体	X
たまねぎ	121 経営体	X
ブロッコリー	162 経営体	5 ha
きゅうり	304 経営体	9 ha
なす	280 経営体	8 ha
トマト	290 経営体	17 ha
ピーマン	116 経営体	2 ha
いちご	19 経営体	3 ha
メロン	24 経営体	2 ha
すいか	78 経営体	6 ha
その他の野菜	207 経営体	26 ha

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	5 経営体	0 ha
その他のかんきつ	3 経営体	X
りんご	1 経営体	X
ぶどう	13 経営体	2 ha
日本なし	22 経営体	23 ha
西洋なし	1 経営体	X
もも	3 経営体	0 ha
すもも	1 経営体	X
おうとう	1 経営体	X
うめ	10 経営体	0 ha
びわ	-	-
かき	9 経営体	0 ha
くり	43 経営体	11 ha
キウイフルーツ	13 経営体	2 ha
リンアップル	-	-
その他の果樹	14 経営体	X

■ 花き

	農業経営体数	栽培面積
花き類	49 経営体	37 ha
花木	16 経営体	X

■ その他の作物

	農業経営体数	栽培面積
その他の作物	19 経営体	28 ha

■ 畜産

	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	3 経営体	X
肉用牛	1 経営体	X
豚	2 経営体	X
採卵鶏	2 経営体	X
ブロイラー	農業経営体数 -	出荷羽数 -

注1: 2015年農林業センサスによる平成27年2月1日前1年間の値。

注2: 作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。

注3: 農家の自己申告による。

白井市の平成27年（2015年）農業産出額（推計）によると、果実が298千万円でもっとも大きく、次いで121千万円の野菜と続き、米は22千万円である。

果実において、日本なしの農業経営体数は200経営体を超え、野菜を含めても品目別ではもっとも多い。野菜の作付面積では、ほうれんそう、ねぎの面積が大きい。

畜産物においては、牛・豚・鶏・その他の合計で20千万円の産出額である。（出典「わがマチ・わがムラ」）

【白井市の農業産出額（推計）と農業経営体数】

■ 農業産出額(推計)		■ 農業経営体数
合計	497 千万円	474 経営体
耕種計	478 千万円	
米	22 千万円	222 経営体
麦類	-	1 経営体
雑穀	-	3 経営体
豆類	2 千万円	51 経営体
いも類	3 千万円	69 経営体
野菜	121 千万円	199 経営体
果実	298 千万円	236 経営体
花き	X	10 経営体
工芸農作物	0 千万円	2 経営体
種苗・苗木類・その他	X	
畜産計	20 千万円	
肉用牛	0 千万円	2 経営体
乳用牛	0 千万円	1 経営体
うち生乳	-	
豚	X	2 経営体
鶏	1 千万円	
うち鶏卵	X	2 経営体
うちブロイラー	-	-
その他畜産物	X	
加工農産物	-	

注1: 農業産出額(推計)と農業経営体数についてはH27年値。

注2: 農業経営体数の合計は実数のため内訳と一致しない。

【白井市の農業関連データ】

販売を目的とした農畜産物の作付・飼養状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物

	農業経営体数	作付面積
水稻	222 経営体	158 ha
陸稲	-	-
麦類	-	-
小麦	1 経営体	X
大麦・裸麦	-	-
そば	-	-
その他雑穀	3 経営体	1 ha
いも類	-	-
ばれいしょ	54 経営体	3 ha
かんしょ	40 経営体	1 ha
豆類	-	-
大豆	17 経営体	1 ha
小豆	1 経営体	X
その他の豆類	38 経営体	2 ha
工芸農作物	-	-
さとうきび	-	-
たばこ	-	-
茶	-	-
てんさい	-	-
こんにゃくいも	-	-
その他工芸農作物	2 経営体	X

■ 野菜

	農業経営体数	作付面積
だいこん	116 経営体	9 ha
にんじん	68 経営体	4 ha
さといも	120 経営体	7 ha
やまのいも	12 経営体	1 ha
はくさい	98 経営体	4 ha
キャベツ	72 経営体	X
ほうれんそう	145 経営体	12 ha
レタス	18 経営体	1 ha
ねぎ	138 経営体	19 ha
たまねぎ	33 経営体	4 ha
ブロッコリー	57 経営体	X
きゅうり	107 経営体	3 ha
なす	117 経営体	X
トマト	109 経営体	4 ha
ピーマン	53 経営体	X
いちご	7 経営体	X
メロン	1 経営体	X
すいか	18 経営体	0 ha
その他の野菜	70 経営体	10 ha

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	-	-
その他のかんきつ	1 経営体	X
りんご	-	-
ぶどう	17 経営体	X
日本なし	205 経営体	X
西洋なし	1 経営体	X
もも	-	-
すもも	2 経営体	X
おうとう	-	-
うめ	16 経営体	2 ha
びわ	-	-
かき	9 経営体	2 ha
くり	27 経営体	11 ha
キウイフルーツ	14 経営体	3 ha
パインアップル	-	-
その他の果樹	6 経営体	2 ha

■ 花き

	農業経営体数	栽培面積
花き類	5 経営体	X
花木	5 経営体	4 ha

■ その他の作物

	農業経営体数	栽培面積
その他の作物	9 経営体	4 ha

■ 畜産

	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	1 経営体	X
肉用牛	2 経営体	X
豚	2 経営体	X
採卵鶏	2 経営体	X
ブロイラー	農業経営体数	出荷羽数
	-	-

注1: 2015年農林業センサスによる平成27年2月1日前1年間の値。

注2: 作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。

注3: 農家の自己申告による。

栄町の平成 27 年（2015 年）農業産出額（推計）によると、米が 108 千万円でもっとも大きく、次いで 37 千万円の野菜と続いている。

野菜において、農業経営体数及び作付面積でも、多様な品目が概ね同等の規模で作付・栽培されている。

果実、花き、畜産物においては、限られた経営体のみで行われている。（出典「わがマチ・わがムラ」）

【栄町の農業産出額（推計）と農業経営体数】

■ 農業産出額(推計)		■ 農業経営体数
合計	155 千万円	398 経営体
耕種計	149 千万円	
米	108 千万円	376 経営体
麦類	-	-
雑穀	-	2 経営体
豆類	1 千万円	32 経営体
いも類	0 千万円	13 経営体
野菜	37 千万円	87 経営体
果実	0 千万円	7 経営体
花き	X	4 経営体
工芸農作物	1 千万円	1 経営体
種苗・苗木類・その他	X	
畜産計	6 千万円	
肉用牛	0 千万円	1 経営体
乳用牛	6 千万円	1 経営体
うち生乳	X	
豚	-	-
鶏	-	-
うち鶏卵	-	-
うちブロイラー	-	-
その他畜産物	-	
加工農産物	-	

注1：農業産出額(推計)と農業経営体数についてはH27年値。
 注2：農業経営体数の合計は実数のため内訳と一致しない。

【栄町の農業関連データ】

■販売を目的とした農畜産物の作付・飼養状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物

	農業経営体数	作付面積
水稻	376 経営体	914 ha
陸稲	4 経営体	2 ha
麦類		
小麦	-	-
大麦・裸麦	-	-
そば	-	-
その他雑穀	2 経営体	X
いも類		
ばれいしょ	13 経営体	0 ha
かんしょ	1 経営体	X
豆類		
大豆	22 経営体	6 ha
小豆	2 経営体	X
その他の豆類	13 経営体	1 ha
工芸農作物		
さとうきび	-	-
たばこ	1 経営体	X
茶	-	-
てんさい	-	-
こんにゃくいも	-	-
その他工芸農作物	-	-

■ 野菜

	農業経営体数	作付面積
だいこん	44 経営体	X
にんじん	7 経営体	0 ha
さといも	34 経営体	1 ha
やまのいも	4 経営体	0 ha
はくさい	38 経営体	1 ha
キャベツ	32 経営体	1 ha
ほうれんそう	38 経営体	1 ha
レタス	9 経営体	X
ねぎ	47 経営体	1 ha
たまねぎ	27 経営体	1 ha
ブロッコリー	21 経営体	1 ha
きゅうり	34 経営体	X
なす	38 経営体	X
トマト	26 経営体	1 ha
ピーマン	6 経営体	X
いちご	12 経営体	3 ha
メロン	1 経営体	X
すいか	1 経営体	X
その他の野菜	23 経営体	4 ha

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	-	-
その他のかんきつ	-	-
りんご	-	-
ぶどう	-	-
日本なし	-	-
西洋なし	-	-
もも	-	-
すもも	-	-
おうとう	-	-
うめ	1 経営体	X
びわ	-	-
かき	2 経営体	X
くり	2 経営体	X
キウイフルーツ	1 経営体	X
パインアップル	-	-
その他の果樹	2 経営体	X

■ 花き

	農業経営体数	栽培面積
花き類	3 経営体	X
花木	1 経営体	X

■ その他の作物

	農業経営体数	栽培面積
その他の作物	11 経営体	21 ha

■ 畜産

	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	1 経営体	X
肉用牛	1 経営体	X
豚	-	-
採卵鶏	-	-
ブロイラー	農業経営体数	出荷羽数
	-	-

注1:2015年農林業センサスによる平成27年2月1日前1年間の値。

注2:作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。

注3:農家の自己申告による。

(8) 主要農産物

印西市、白井市、栄町を管内とする西印旛農業協同組合（JA西印旛）では、管内の主な農産物として下表の農産物を紹介している。

なお、「みつば」は以前、吉田区の産品として盛んに出荷されていたが、現在は生産農家数が減少している。

品目	概要	収穫時期
ナシ	千葉県の梨は全国屈指の生産量があり、その中でも白井市産の梨は「しろいの梨」として有名。「幸水」「豊水」「新高」などの栽培が盛ん。	8月～10月
水稻	管内のほとんどの地域で作られている。「コシヒカリ」を中心に「ふさおとめ」や「あきたこまち」が作られている。	8月下旬 ～10月
イチゴ	市場出荷、直売が行われており、主に「とちおとめ」が作られている。	12月中旬 ～5月初旬
トマト	管内では、ハウス、露地ものが年間を通して収穫されている。大玉、ミニトマトと品種も多く、JA直売所でも人気が高い。	周年
メロン	パパイヤメロンは印西で直売中心に人気の商品。ネットメロンも盛んに作られている。	5月～7月
スイカ	印西市草深、竜復寺を中心に古くから栽培されている。ハウスは5月中旬～、露地では6月中旬～7月まで収穫される。「甘泉」「祭ばやし777」のほか、小玉スイカが栽培されている。	5月～7月
キュウリ	市場出荷、直売所での販売用に栽培が盛ん。	周年
ジネンジョ	農薬や化学肥料の使用を極力抑えて栽培する「ちばエコ」農産物の認証を取得している。贈答品としても好まれている。	11月～2月
栗	印西市の特産品のひとつとなっている。印西市草深を中心に栽培されている。	9月・10月

(JA西印旛ホームページより)

品目	概要	収穫時期
黒大豆・枝豆	栄町産丹波黒大豆・枝豆「どらまめ」として人気を集めている。市場出荷のほか、オーナー制度を設け、毎年県外からも多くの方が訪れる。	10月中旬
ネギ	夏ネギを中心に栽培しているが、近年は直売所で鍋料理に適したものも作っている。	周年
ハウレンソウ	市場出荷、直売所で販売されている。印西市や白井市を中心に作られている。	周年
ニンニク	暖地系ニンニクを作付けし、市場出荷のほか直売所で生ニンニクの販売をしている。	5月下旬 ～6月
ソラマメ	2月頃から収穫できるハウスソラマメの栽培をしている。見た目も中身も充実している。	2月～5月

(J A西印旛ホームページより)

(9) 土地利用

印西市の土地利用について、農地や山林などの自然的土地利用と、住宅や商業・工業用地などの都市的土地利用に大別すると、自然的土地利用が70.4%、都市的土地利用が29.6%である。

北部には、古くは木下河岸を中心とした水陸交通の要衝として栄え、現在は駅舎などの都市施設が整備された木下と、田園環境と調和した住宅地が広がる小林があり、木下駅と小林駅を中心に市街地が形成されており、また、国道356号バイパス沿道では、沿道型の商業施設の立地が進んでいる。

中央部には、新住宅市街地開発事業により良好な住宅地や商業業務地などの整備が進められ、千葉ニュータウン中央駅、印西牧の原駅、印旛日本医大駅を中心に市街地が形成されるとともに、これらの駅周辺や国道464号（北千葉道路）沿道で、商業施設などの立地が進んでいる。一方、事業地内には、未だに多くの未利用地が残されている。

南東部の平賀学園台では閑静な住宅地が、南部には製造業、流通などの企業が立地する松崎工業団地が形成されている。（「印西市都市マスタープラン」引用・参考）

表 土地利用の状況

	自然的土地利用		都市的土地利用		合計面積 (ha)
	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	
都市計画区域(市全域)	8,712.1	70.4	3,667.9	29.6	12,380.0
市街化区域	339.8	17.8	1,567.2	82.2	1,907.0
市街化調整区域	8,372.3	79.9	2,100.7	20.1	10,473.0

※面積は、計測値

資料：平成23年度都市計画基礎調査

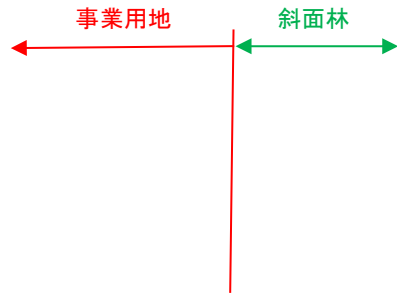


図 土地利用現況図

(10) 自然環境

約5km圏内に複数の大規模住宅群が存在しているが、事業用地は、特徴的な斜面林に囲まれた台地であるほか、周辺には印旛沼等を中心とした水辺環境が存在するなど、都市に近接した貴重な自然環境が広がっている。

事業用地におけるこうした自然環境は、印西地区における代表的な農景観である。



【田園・集落景観】

印西市は、沼及び河川周辺の低地に広がる水田地帯と台地部に見られる畑地の田園景観が市域の多くを占めている。また、水田地帯や畑地周辺に集落があり、民家と屋敷林、庭木と背後の樹林地が一体となった地域らしい景観が見られる。農地、樹林地などで構成される里山は、市内に残る貴重な自然環境である一方で、遊休化した農地が一部に見られる。（「印西市景観まちづくり基本計画（案）引用・参考」）

【水辺景観】

印西市は、北部に利根川、東部に北印旛沼、南部に西印旛沼、北西部に手賀沼を有し、豊かな水辺景観を形成している。また、印旛沼や手賀沼などに流れ込む大小の河川では、田園、樹林地と一体となった水辺景観が見られる。

これらの水辺や河畔などには、親水空間や遊歩道・サイクリングロードなどが設けられ、市民が多様な生物とふれあえる場である。（「印西市景観まちづくり基本計画（案）引用・参考」）

【特徴的樹木景観】

印西市には、地域を特徴づける樹木が多く分布している。その中でも特に市の天然記念物に指定されている吉高の大桜は、市民から親しまれ、春の満開時になると多くの花見客が訪れる。このほか、小林牧場の300本を超える桜並木は県内有数の桜の名所として知られ、県立印旛沼公園の桜は春には多くの桜が園内を彩る。また、印西市立木下小学校校庭のクスノキは、木下交流の杜広場の展望ステージから見ると、利根川を背景にシンボル樹の様相を呈している。このほか、市内に点在する寺社には、巨樹や古木が多く見られる。（「印西市景観まちづくり基本計画（案）引用・参考」）

(11) 集客イベント

組合構成市町内では、それぞれ以下の伝統行事やイベントが開催されている。

① 印西市内の伝統行事やイベント

- ・木下万葉公園の河津桜（3～4月）
- ・小林牧場の桜（3月下旬～4月上旬）
- ・吉高の大桜（4月上旬）
- ・いんざいぶらり川めぐり（4月～11月）
- ・小林こいのぼり（4～5月）
- ・八幡神社の獅子舞（4月）
- ・鳥見神社の獅子舞（5月）
- ・印旛地区のアジサイ（6月）
- ・六軒巖島神社の祭礼（7月）
- ・阿夫利神社例大祭（7月）
- ・別所の獅子舞（8月）
- ・結縁寺の彼岸花・御開帳（9月）
- ・いなざき獅子舞（9月）
- ・鳥見神社の神楽（10月）
- ・浦部の神楽（10月）
- ・いんざい産業まつり（11月）
- ・六軒年越し神輿（12月）
- ・印西市の花/コスモス（竹袋調整池、牧の原公園、師戸、川の停車場（印西ぶらり川めぐり第二発着所）
- ・木下駅南骨董市（毎月第1土曜日）

② 白井市内の伝統行事やイベント

- ・しろいホワイトフェスティバル（3月）
- ・しろい桜まつり（4月）
- ・プラネタリウム夏休み投影（7～8月）
- ・ときめきマルシェ（10月）
- ・白井市ふるさとまつり（10月）
- ・熟睡プラネタリウム（11月）

③栄町内の伝統行事やイベント

- ・ さかえリバーサイドマラソン（2月）
- ・ 栄町さくらまつり（4月）
- ・ むらの縁日・夕涼み（8月）
- ・ SAKAE リバーサイド・フェスティバル（8月）
- ・ 千葉・時代コスプレ大会 in さかえ（11月）
- ・ 少子化克服なべまつり（12月）

(12) 公共交通

事業用地の周辺には、北総線の千葉ニュータウン中央駅（事業用地からの直線距離で約 4.2 km）・印西牧の原駅（同 3.8 km）・印旛日本医大駅（同 5.2 km）、京成本線の京成臼井駅（同 5.6 km）・ユーカリが丘駅（同 5.7 km）、東葉高速線の村上駅（同 6 km）などがあるものの、徒歩や自転車圏内に鉄道駅は存在しない。

また、民間バス路線については、吉田区の集落内に「吉田宮前」バス停（同 1 km）があるものの、本数は京成臼井駅方面・印旛日本医大駅方面と併せて 1 日 5 本と少ない。

また、印西市ふれあいバスについては、運行ルートから外れている。

以上のことから、事業用地における公共交通の利便性は良いとは言えない。

【事業用地周辺の民間バス路線】



印西市ふれあいバスの事業用地における最寄りのバス停は「松崎」であるが、事業用地からは約2kmの場所にある。近傍ルートである「南ルート」時刻表は以下のとおりである。

【印西市ふれあいバス南ルート「松崎」バス停時刻表】

ルート	時 刻			
高花・木刈・ 松崎回り 循環ルート	1便 8:30	★3便 11:29	5便 14:33	★7便 17:32
松崎・木刈・ 高花回り 循環ルート	★2便 9:09	4便 12:13	★6便 15:17	8便 18:11

★：柏木台経由便

(13) 計画を含む道路網

印西市都市計画マスタープランにおいて、市内の広域幹線道路、主要幹線道路、地区幹線道路、既成市街地内道路・集落地内道路別に示している方針について、事業用地に近い道路に関するものを抜粋して整理する。

【広域幹線道路】

○国道

東京都心部方面や成田方面など、印西市と周辺都市間を連結する東西方向の広域的な幹線道路については、整備の促進とともに、適切な維持管理を要請している。特に、国道 464 号（北千葉道路）については、印西牧の原駅以東における掘割部区間も合わせて整備を促進している。

千葉柏道路については、国道 6 号や国道 16 号など、千葉県北西部における広域的な幹線道路の慢性的な渋滞の緩和のため、早期事業化を関係機関に要請している。

【主要幹線道路】

○国道・県道

印西市と周辺都市間を結ぶ国・県道については、主要幹線道路としての通行性や安全性を確保するため、接続する道路の整備状況にあわせた改良・拡幅を促進するとともに、適切な維持管理を要請している。

○市道

印西市と周辺都市間、または各拠点間を結ぶ路線区間の一部を構成する市道については、主要幹線道路としての通行性や安全性を確保するため、適切に維持管理する。

【地区幹線道路】

幹線道路を結ぶ市道については、集落地間を連絡する地区幹線道路として整備を進めている。

地区幹線道路に位置付けるその他の市道については、街区または集落地周辺の交通を広域幹線道路または主要幹線道路に接続する道路として、適切な維持管理とともに、安全に配慮した必要な整備を検討している。

【既成市街地内道路・集落地内道路】

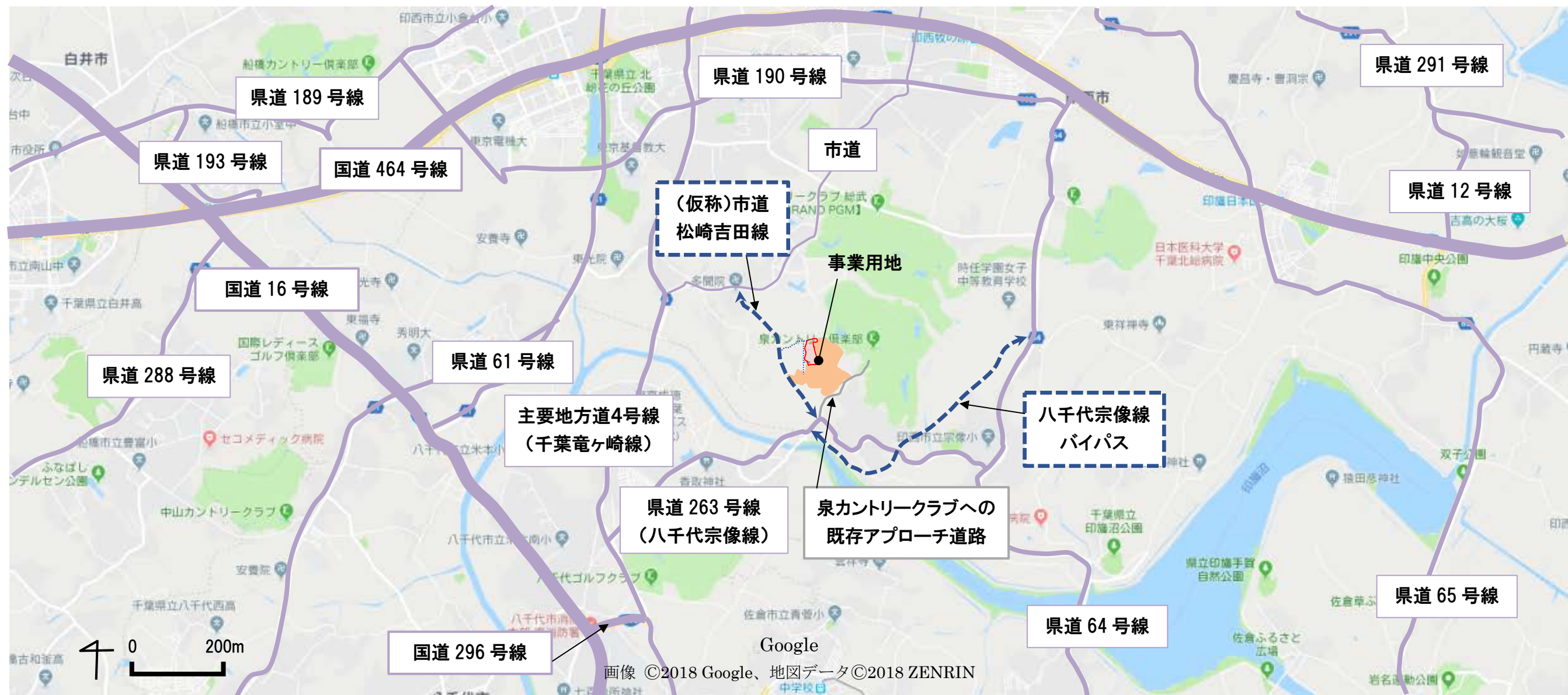
既成市街地や集落地内の道路については、身近な生活空間への通過交通の流入を抑制するとともに、見通しの悪い交差点の改善や安全な歩行空間の確保を検討している。

狭あい道路については、円滑な消防・防災活動や日常生活の利便性・安全性に配慮して、必要に応じた整備を検討する。

【事業用地周辺の既存・計画道路網】



【事業用地周辺の広域道路網】



(14) 災害想定

事業用地及びその周辺において想定される災害について、印西市地域防災計画に掲載されている各種ハザードマップによると、周辺の谷津田や河川沿いについては、液状化・揺れ・浸水に対する懸念が認められるものの、台地上に位置する事業用地については、各種の災害に対する懸念が少ないエリアであると想定される。

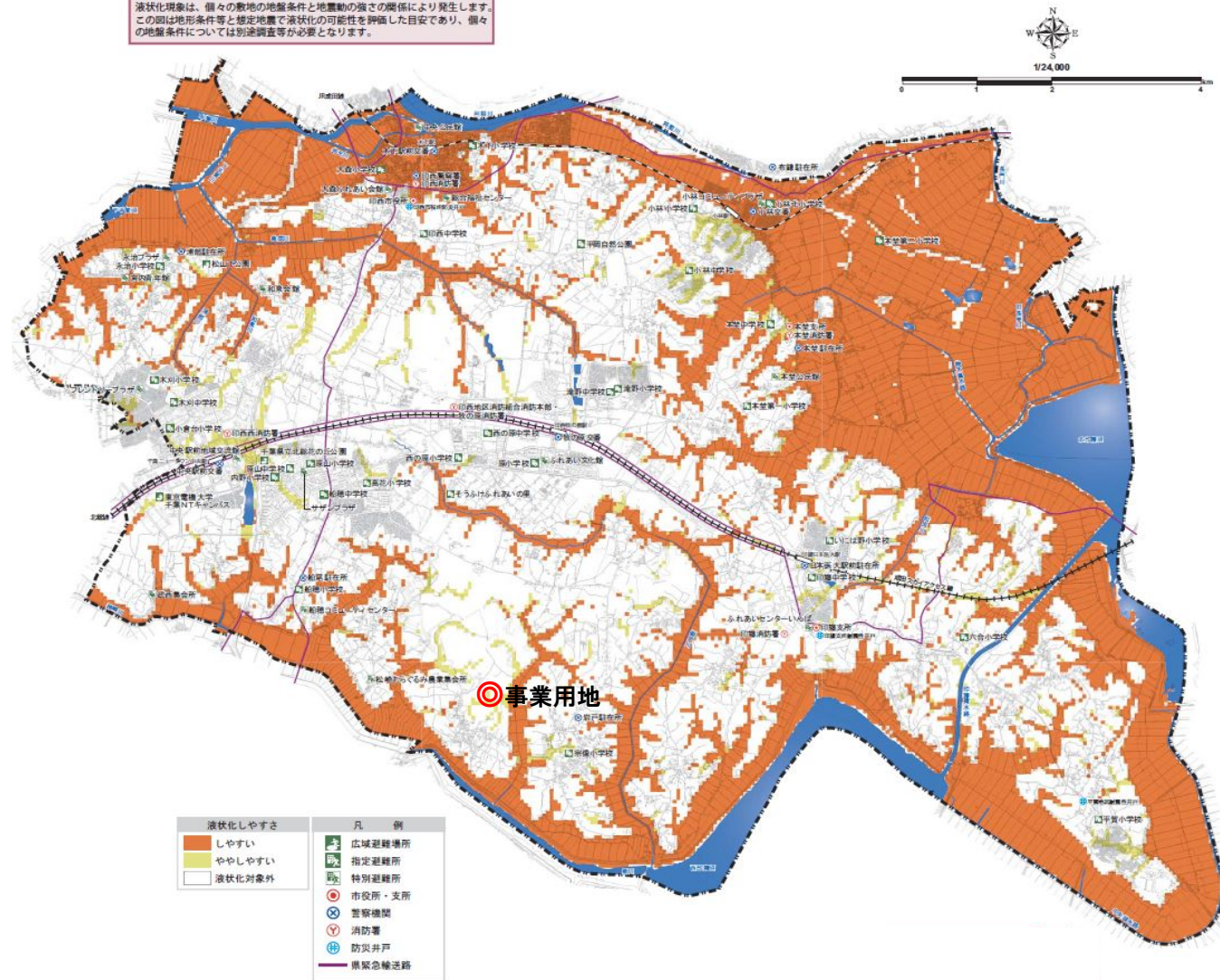
ただし、過去には複数回にわたり降ひょうによる農作物への被害を受けているほか、近年は全国的に異常気象が頻発している。

【県北部に大雨・降ひょうで農作物などに被害】

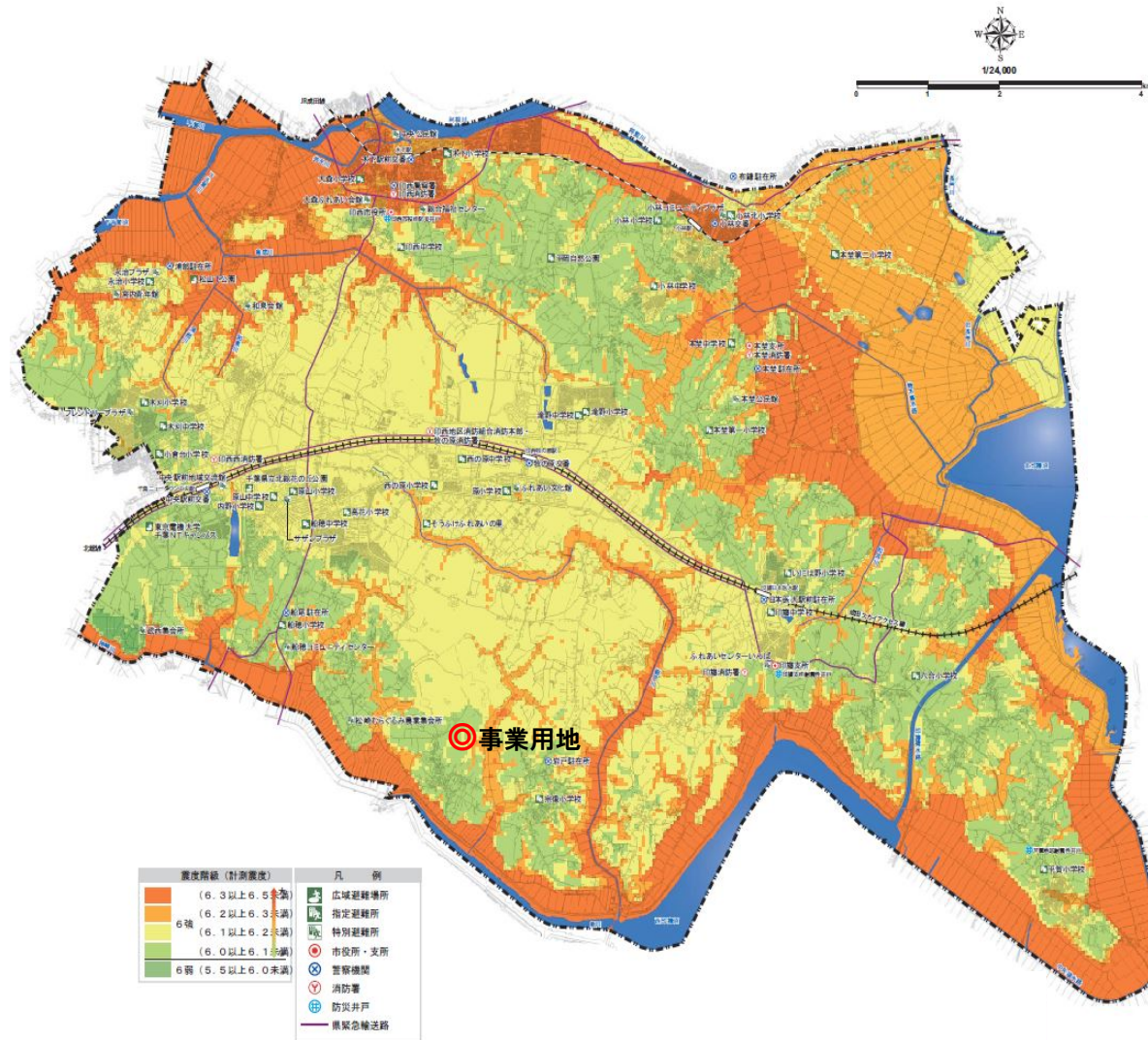
平成 12 年 5 月 24 日、県北部に雷雲が発生し、我孫子市、白井町、印西市、富里町など 26 市町村において大雨とミカン大からピンポン玉の大きさのひょうが降り、柏市などで 100 人を超える負傷者やガラス破損等 29,000 棟余りの建物被害が発生した。また、すいか、なし、ねぎ、とうもろこし等の農作物被害も総額で 71 億円を超え、昭和 58 年 7 月の降ひょう被害に次ぐ規模となった。

【印西市液状化マップ】

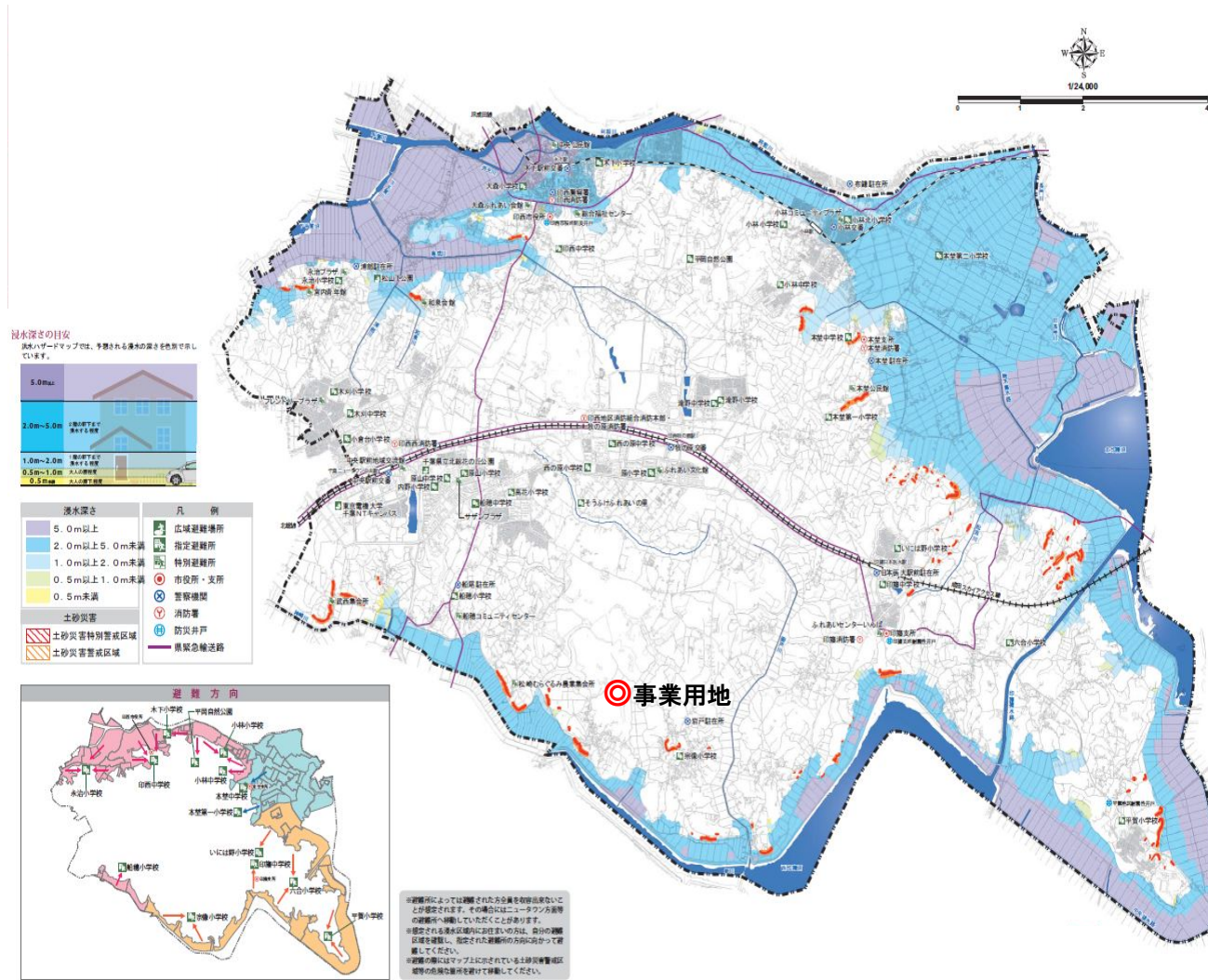
液状化現象は、個々の敷地の地盤条件と地震動の強さの関係により発生します。この図は地形条件等と想定地震で液状化の可能性を評価した目安であり、個々の地盤条件については別途調査等が必要となります。



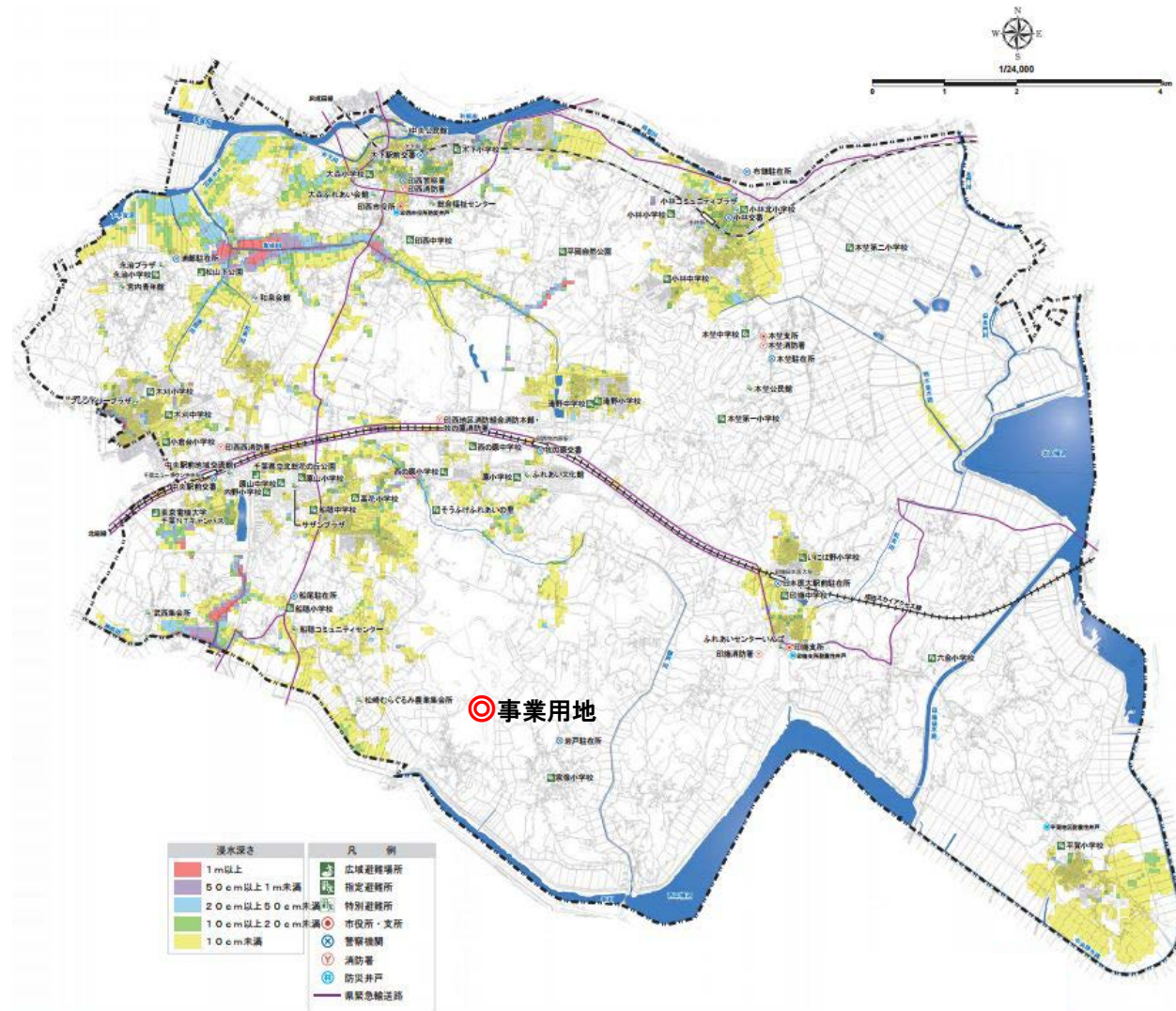
【印西市揺れやすさマップ】



【印西市洪水土砂ハザードマップ】



【印西市内水ハザードマップ】



6 吉田区における地域振興策のニーズ

吉田区が、区内の全世帯（131世帯）に対して、平成27年12月21日～29日に「希望する地域振興策のアンケート」を実施し、56世帯（回収率：42.7%）から回答を得た。集計結果は以下のとおりである。

展開場所候補	ねらい	関心度平均 (最大5)	偏差値	個別事業案		
				得票数 (最大56)	偏差値	
施設建設候補地の台地	賑わい創出 雇用創出 収益事業	3.82	58	道の駅	8	68
				温浴施設(露天風呂・温水プール・岩盤浴)	8	68
				プレミアム地域通貨	6	60
				各施設管理業務受託(平岡方式)	4	52
	レジャー振興 集客効果	2.92	45	飲食店モール	2	44
				ちびっ子ランド	4	52
				煙突展望台	4	52
				大規模な花畑迷路	3	48
				ジャブジャブ池	3	48
				ハーベキュー広場	1	40
				オートキャンプ場	1	40
				燻製・石窯・薪炊飯場	1	40
				棚田・棚畑・棚花畑	1	40
				ドッグラン	0	36
				焚き火場	0	36
				ふれあい動物園	0	36
	ダチョウ園	0	36			
	スポーツ振興 集客効果	2.96	45	レンタルサイクル・スクーター・セグウェイ	8	68
				サイクリング愛好家駐車場	4	52
				屋外クライミング	3	48
スポーツジム				3	48	
農業振興 集客効果	3.04	46	屋内カーリング場	2	44	
			サイクル・アウトドア用品保管庫	1	40	
			ハラライダー発着場	0	36	
			もぎとり農園	4	52	
コミュニティ機能	2.78	43	クワイガルテン(市民農園)	4	52	
			食品残渣循環施設(堆肥化)	3	48	
			温室	2	44	
			商品開発・調理加工施設	1	40	
排熱利用 収益事業	3.60	54	多目的研修室	6	60	
			住民サロン	4	52	
			ゲストハウス(宿泊棟)	3	48	
			イベント広場	2	44	
			泉カントリーへ温水供給販売	7	64	
			温水洗車場	5	56	
			EV充電ステーション	5	56	
			排熱利用事業者(鰻養殖等)の誘致	5	56	
メタンガス事業	3	48				
環境・文化学習	2.53	39	可搬式蓄電池	3	48	
			排熱輸送販売事業	2	44	
			給食センター誘致	2	44	
			環境図書室	5	56	
起業支援	2.34	36	カルチャー教室	4	52	
			調整池(ヒートフ)	4	52	
環境保全	2.40	37	ギャラリースペース	1	40	
			歴史文化財展示室	1	40	
ソフト関係	2.48	38	ベンチャー起業事務所(あらゆる業種対象)	1	40	
			猛禽類の営巣場	4	52	
防災拠点化	4.06	61	環境NPO事務所	2	44	
			吉田区ホームページ	2	44	
			施設整備記録映画	2	44	
			地域の魅力・グルメ・イベント紹介AV	1	40	
災害時電力供給・温水供給	9	73				
各施設避難所対応	8	68				
救護・援護施設化	6	60				
救援・支援部隊基地機能	4	52				

展開場所候補	ねらい	集落内		個別事業案	施設建設候補	
		関心度平均 (最大5)	偏差値		得票数 (最大56)	偏差値
集落内	環境衛生整備	4.17	63	上水道	8	68
	環境衛生整備	4.24	64	下水道	10	77
	道路整備	4.19	63	合併浄化槽	2	44
				狭隘な集落内道路・農道の待避所整備	8	68
				カーブミラーの整備	5	56
	排水路整備	3.43	52	既存道路の段差・急傾斜など危険箇所修繕	4	52
				ガードレールの整備	4	52
	防犯・防災	4.13	62	入場地区泉カントリー側道の付け替え整備	3	48
				元吉田グラウンド外周未整備排水路の整備	2	44
	公共交通改善	4.37	65	防犯監視カメラの整備	9	73
防犯灯の整備				5	56	
福利厚生	3.86	58	防災無線システム	2	44	
			印西市ふれあいバスの延伸	10	77	
			オンデマンド交通の構築	5	56	
			地域振興施設の吉田区住民フリーバス	6	60	
文化・伝統保存	3.53	53	健康診断	2	44	
			託児室の整備	2	44	
コミュニティー機能	2.49	39	Uターン・Iターンの助成措置	1	40	
			御神輿オーバーホール	2	44	
施設建設候補 地北側谷津田 から総武カントリー側谷津田 に至るエリア	自然公園の整備	3.39	51	縁側カフェ開設希望者支援	1	40
				暮らしの観光実施希望者支援	0	36
				市民の森	7	64
				里山散策・サイクルコース	5	56
				里山トイレ整備	4	52
				林間アスレチック	3	48
				土水路整備(木道など)	3	48
				小魚釣り堀	3	48
				里山ジョギングロード	3	48
				巣箱(バードウオッチング)	2	44
農林水産業振興	2.83	43	田んぼの自然公園	2	44	
			イチゴの畦	0	36	
吉田・岩戸千拓	レジャー振興	2.21	34	森林栽培生産	4	52
				オーナー制度稲作	3	48
				川魚の養殖	2	44
				吉田マリーナ	3	48

アンケート結果のまとめ

- ①集客・収益の核となる温浴施設などは、一定の票を集めたが、核となる施設と連携する規模の小さい関連策については、票が分かれた。
- ②防犯・防災に関することについて、多くの票を集めた。
- ③インフラ整備に関することについて、多くの票を集めた。
- ④公共交通改善に関することについて、多くの票を集めた。
- ⑤里地里山に関することは、全般的に票が少ない。(市民の森等を除く)